

劇団5454「ト音」

作・春陽漁介

■あらすじ

都内の公立高校に通う、新聞部の藤と秋生。教師たちしか読まない校内新聞に嘆く二人は、新聞の内容をゴシップに変えることに。学校に蔓延する「嘘」を暴くのだ。

一方保健室通いの秀才長谷川は、音の周波数を利用した「物体の破壊実験」を繰り返す。しかし実験を進めるには、音によるウソ発見器、通称「ト音」が必要であった。

そんなある日秋生は、人気教師の坂内が生徒に嘘ばかりついていることに気が付く。

坂内をターゲットに「嘘の破壊」計画を実行するべく結託する3人。

その先に待っていたのは、嘘と願うようなとある真実であった……。

嘘の周波数と笑いが奏でる、ちょっと不思議な協和音。

■登場人物・キャスト

秋生 (アキオ)

高校二年生 五組 新聞部

藤 (フジ)

高校二年生 五組 新聞部

千葉 (チバ)

高校二年生 六組 サッカー部

長谷川 (ハセガワ)

高校二年生 二組

坂内 (バンナイ)

体育教諭 二年五組担任

五味 (ゴミ)

数学教諭 二年六組担任

安達 (アダチ)

社会教諭 二年二組担任

戸井 (ドイ)

国語教諭

古谷 (フルヤ)

英語教諭

江角 (エスミ)

養護教諭

■ 0場 保健室

二〇一九年六月十四日（金）朝
保健室。朝。

古谷、校内新聞を読んでいる。

古谷、微笑む。

江角、登校して来る。

江角 ツ！ビックリしたあ。

古谷 おはよ。

江角 ちよつと、勝手に入るのはさすがにやめて？

古谷 お前が遅いんだろ？

江角 それ言われちゃったらもう終わりよ。

古谷 朝練で怪我した学生いたらどうすんだよ。

江角 ええ？ツバでもつけときゃ治るわよ。

江角、話しながら柵から白衣を出して着ている。

古谷 いつの時代だよ。どうせ寝坊だろ？

江角 なに？なんか用？

古谷 これこれ。ついに秋生君が完成させましたよ。

古谷、校内新聞を渡す。

江角 あ、出来たの!？

古谷 なかなか良い新聞だよ。

江角、興味深そうに読む。

古谷 ここ見て？

江角 ん？……「嘘の音」？

古谷 そうそう。秋生のコラム。

江角 へー。

古谷 コラムっていうかエッセイなんだけどね？溢れ出る気持ちをさ、なんとか冷静に書き上げようとしている感じが読み取れてさ。なんか……あれ……？

古谷、目頭を押さえる。

江角 秋生君は、本当に藤君が好きだったんだね。

古谷 ……そうだな。

江角 大丈夫かな。

古谷 周り次第じゃない？

江角 え？

古谷 彼だけの話じゃないよ。

江角 ……そうだよね。

江角と古谷、秋生を思う。

■ オープニング

秋生、屋上に座っている。
以降、ぼえとリーディング。

秋生 都立双柳高校。有楽町線江戸川橋駅から徒歩8分程度の古びた公立高校。偏差値57にまとめられた250名。それを100個に分けた箱庭。ここには新聞部がある。所属するのは二人だけ。藤と秋生。

藤 秋生君。

藤君。

取材行つて来たよ。

屋上でネタを出す、いつも君と。

藤 じゃあ始めようか。

二人、ノートを開く。

二人

よろしくお願いします。
生徒から一番人気、体育の坂内。

坂内

二年の学年主任に決まってまんざらでもない。

坂内

そんな大役、私に務まりますかねえ？

千葉

バンバァン！

藤

サッカー部所属の千葉。

千葉

また寝坊したあ！

秋生

朝練をサボり続ける彼は、当然ベンチウォーマー。授業態度も怠慢。結果学力は散々。それでも求めるロマン。

千葉

あ、長谷川さあん！（走り出す）

五味

（千葉とすれ違い）おい！

藤

数学の五味。

秋生

またの名を鬼。目が合えば誰もが籠の中の鳥。

五味

廊下を走るな。

長谷川

（手を挙げて）はい。

藤

才色兼備の長谷川。

秋生

生きる世界は僕らの外側。

長谷川

リミットNを無限大、シグマN=1からNまで、F、N分のN×N分の1=1=インテグラル0から1まで、FXDX。

秋生

それなんの公式？

長谷川

区分求積法だよ。

二人

聞いてもわかんないっていうね。

戸井

（小声で）授業を始めます。

藤

古典の戸井。

戸井

（小声で）今日は、伊勢物語です。

秋生

声が遠い。趣味には熱いが教師は不向き。故に生徒から怒られることも時折。

安達

そんなの聞く方が研ぎ澄ませばいいじゃない。そんなことより飲み行かない？

藤

安達は社会。

秋生

樂觀的であり、他人に影響を受けない。

安達

気にしない気にしない私なら気にしない。だってあれよ？所詮他人なんだから。

秋生

言い方を変えれば、ゴーイングマイウェイ。

古谷

ノーノー。Going Myway.

藤

英語の古谷。

秋生

今年からの新任で女子はチャホヤ。オシャレでイケメンと言うが、この溢れ出るドヤ。気に入らない男子もいるようだ。

江角 藤
秋生
二人
秋生

どうした？
保健室の江角。
先生であり先生でない相違。保健室に溜まる不良たちの面倒も仕事の内。飾らない振る舞いが売り。以上で、人物紹介終わり。
お疲れ様でした。
平凡な日常ばかり並ぶ新聞。一面には校長のコラム。読む人は皆無。それでも、藤君と作る毎日は楽しさで満たされている。それが無くなるなんて考えるだけで怖くなる。
変わりたくないと思う。なのに、変わってしまって。身勝手に、ワガママに、意固地になっても、変えられてしまう。でもそれは、自分が誰かの人生の一員であることを意味する。

暗転。

二〇一九年五月十七日(金) 昼休み。
藤と秋生は、新聞のネタ出しをしている。
犬の鳴き声が聞こえる。

秋生 バレー部が先月の地区大会で優勝しました。
藤 はい、4分の1ページは使っていると思います。
秋生 あとの部活は練習試合ばかりです。
藤 それは全部で4分の1。結果だけギュッと羅列してください。
秋生 はい。あと、校長のコラムが上がって来てるのですが……
藤 ∞分の1で。
秋生 あいや、それがその……
藤 なんですか？
秋生 文字数を400字でお願いしてたんですけど……
藤 またオーバーですか？
秋生 1200字ありました。
藤 バカ野郎かよ！一面全部校長になるわ！
秋生 どうしましょう……
藤 カットカット。カットに決まってるだろう？
秋生 あ……はい。
藤 はい次。
秋生 あ、以上です。
藤 え？
秋生 ……
藤 以上？まだ表も埋まってないんですけど。
秋生 とりあえず、今は、はい、以上です……。
二人 お疲れさまでした。
藤 ……
秋生 や、やっぱ藤君はすごいなあ。僕じゃ全然集められないもんなあ。
藤 そういうのいいから。
秋生 ごめんなさい。
藤 ……ねえ。この新聞面白い？
秋生 え？
藤 秋生はこの新聞面白いって思ってる？
秋生 あ……え？ えっと……
藤 面白くないよね？
秋生 うん。面白くない。
藤 面白くないの？
秋生 え、面白い。
藤 は？
秋生 え？どっち？
藤 こっちの台詞だよ。
秋生 あ、ごめん……。

間。

藤 これさ、読んでる生徒いるの？
秋生 え？
藤 毎回部活報告とか、校長コラムが中心でさ、なんなの？PTAの会報なの？
秋生 違う。
藤 なんかさ、毎回締め切りに追われるだけで、誰の目にも止まらないとか、飽きてきざん

秋生 たよ。
藤生 ……。
藤生 そう思わない？
秋生 そう、かも、でも僕は結構楽しいよ？
藤生 なにが？
秋生 藤君と新聞作ってるの。
藤生 ……。だっただらもつとなんかないの？
秋生 え？
藤生 もつとネタ探して来るとかさ、こういう新聞にしたいとかさ。
秋生 ああ……。
藤生 やりたい割には別に熱があるわけでもないじゃん？
秋生 ……。ごめん。
藤生 いや、別にいいんだけど。
秋生 ……。藤君は、どういう新聞にしたい？ どういう新聞だったら楽しい？
藤生 そりゃあみんなが熱中する新聞だよ。
秋生 なるほど。みんなが熱中するにはどうしたらいいの？
藤生 みんなが驚くような刺激的なネタ探し。
秋生 なるほど。どういうネタが刺激的なの？
藤生 あのさあ、そうやっていつも俺任せにするの、本当良くないよ？
秋生 ごめん……。
藤生 はい、どんなネタが刺激的だと思いますか。
秋生 えっとお、ゾンビウイルスとか。
藤生 刺激強すぎるわ。新聞作ってる場合じゃねえよ。
秋生 そうだよ。それは放送部の仕事だね。
藤生 新聞部の刺激って言ったらゴシップじゃない？
秋生 ゴシップ？
藤生 誰と誰が付き合ってる、とかさ。
秋生 あ、週刊誌みたいなの？ パパラッチ？
藤生 そうそう。毒つ気がある感じ。結局みんなそういうのが好きなんだよ。
秋生 確かに。気にはなっちゃうよね。
藤生 校内新聞でそんなの作れたら面白いよ。
秋生 そっか……。頑張る。ネタ探し頑張る。
藤生 どうせ無理でしょ。
秋生 本当に。次こそ頑張る。
藤生 じゃあ放課後にネタ出しね？
秋生 え！？
藤生 なに？
秋生 いや、放課後は、その、今日だなんて思って。
藤生 今日だよ。締め切りまで時間ないんだから。
秋生 そうだよ。頑張る。

千葉、入ってくる。

千葉 YoYo。マイクチェックワンツー。
秋生 え、え。
藤生 なんかわんな奴近づいて来たぞ、おい。
千葉 昼休み屋上。千葉が登場。
秋生 千葉君どうしたの？
藤生 ラップ始めたらしいよ。
千葉 マイクチェック、チェックマイクチェックう。
藤生 どんだけチェックすんだよ。

千葉 俺の名前は千葉あ。俺ラップ始めたあ。
秋生 これは刺激ある？
藤 弱酸性。
秋生 肌に優し。
千葉 どう？俺のライム。
藤 ダセエよ。野球部の私服くらいダセエよ。
千葉 マジかよ。伸び代しかねえじゃん。

千葉、菓子パンを食べ始める。

藤 っつか千葉、どこ行ってたの？
千葉 職員室。
藤 なんて？
千葉 バンバンに進路相談。
秋生 進路相談？
千葉 バンバン、マジ親身。菓子パン、マジ親しみ。
藤 いや、韻踏めばいいってもんじゃねえだろ。
秋生 千葉君、なんで坂内先生に相談してるの？
藤 確かに。担任五味だろ？
千葉 ……そうだよ。でも玉砕されたんだよ。
藤 なに？ちよつと面白そうじゃん。
千葉 聞く？
秋生 聞かせて？
千葉 昨日の放課後、五味の面談だったんだよ。

別空間に進路相談室。

五味、座って進路希望調査票を眺めている。

千葉、五味の前に座る。

千葉 スポ薦に絞って提出してただけだよ。
五味 無理だ。
千葉 いや、でもうちのサッカー部結構強くて、春も関東出場してて――
五味 そんなことは知っている。
千葉 はい。
五味 スポ薦で行くなら、関東大会でもベストイレベルは必要だ。例えばお前が志望してる早稲田。
秋生 え？
藤 (笑)
千葉 なに笑ってんだよ。
秋生 あいや、高みを目指す千葉君の姿勢、素晴らしいと思います。
五味 ベストのチームでも行けて一人だ。当然ベンチを温めている奴の出る幕はない。では、千葉の出番までぐーーーーーーとランクを下げて日大。
藤 日大切ない。
秋生 しかし、日大は強豪とは言えない。つまりサッカー部の予算は少ない。どういうことかわかるか？日大のスポ薦はある程度の学力も必要なんだよ。その、ある程度の学力、俺の知ってる千葉は持ち合わせていない！
千葉 (召される)
五味 出直して来い。

五味、去る。

千葉、お尻をおさえる。

秋生 さすがだね……。
千葉 俺、気付いたらウンコ漏れてたよ。
藤 一面にしよう。
秋生 あ、ウンコは刺激的？
千葉 それは載せないでくれよ。
藤 えー。つまんねえの。

別空間に職員室。
坂内、千葉に声を掛ける。

坂内 おお千葉、どうした？
千葉 それに比べてバンバンですよ。
坂内 お前はまだ自分の才能に気付いていないだけなんだよ。千葉はな？ 足下に咲くきれいな花
藤 かも知れないし、誰よりも高く伸びる杉の木かも知れない。
坂内 例えるねえ。
千葉 どんなに力があつたとしても自分が諦めたら枯れちゃうんだよ。先生、お前には期待して
るぞ？
坂内先生！

千葉と坂内、抱き合う。

千葉 バンバン、マジ神。菓子パン、マジ親しみ。
藤 レパートリー少な。
千葉 この話はネタにしていいよ。
秋生 え？
千葉 ネタに困ってんだろ？ バンバンエピソードなら使っていいよ？
秋生 ありがとう！
藤 だから、そういうのはいらねえの。
秋生 あ。
千葉 え、なに？
藤 もうそういうつままない新聞は作らないの。
千葉 え？どゆこと？

藤、去る。

秋生 あ、藤君。ちよつと待ってよ、藤君。
千葉 なんだ？あいつ。

秋生、藤を追いかけるがすぐに戻って来る。

秋生 あの、千葉君。
千葉 え、秋生？どうした？
秋生 なんかネタない？
千葉 は？
秋生 ヤバいんだよ。ネタ探さないと新聞部ピンチなんだよ。
千葉 ええ？でもバンバンはダメなんでしょ？
秋生 まあダメっていうか、あんまり刺激がないというか。
千葉 刺激？
秋生 そうなの。新しい新聞には毒が必要なんだって。なんかない？
千葉 ええ？そうだなあ……。

校庭から犬の鳴き声が聞こえる。

千葉 ああ犬は？今朝から迷い込んで来てるじゃん。
秋生 え、犬？
千葉 野良犬って毒持ってるじゃん？
秋生 え、あ、毒ってそういうこと？

千葉、屋上のフェンスから校庭を眺める。

千葉 校庭に犬。芝犬。俺は二度死ぬ。色は茶色。人生色々。つまり厳しい。でも犬は可愛い。
秋生 あ、うん。見ればわかる。ありがと。
千葉 可愛い。それはプリティ。プリン、プリッツ、プリングルスう。
秋生 プリ縛り？そういうのもありなの？
千葉 かってか新しい新聞ってなに？別に今のままでも良くない？
秋生 今のままじゃ面白くないんだって。
千葉 え、そう？面白いよ？
秋生 そう言ってくれるのは千葉君だけなんだよ。
千葉 それじゃダメなの？
秋生 ……藤君は、嫌みたい。
千葉 (笑)
秋生 笑いごとじゃないんだよ。藤君、このままじゃやめちゃうと思う。
千葉 やべえじゃん。廃部じゃん。
秋生 うん……。
千葉 えー寂しいなあ。
秋生 あ、まあ、続けようと思えば続けられる。
千葉 え？
秋生 そもそも正式な部活ではないから。
千葉 あ、そうなの？
秋生 そうだよ。部活って三人からだもん。
千葉 え、マジで？じゃあ新聞部ってなんなの？
秋生 ……さあ。
千葉 さあってことないでしょ。どういう仕組み？秋生が入った時はどうなったの？
秋生 あいや、新聞部って元々無いんだよ。
千葉 え？
秋生 元々廃部になって、一年生の夏くらいかな。五味先生からやれって言われてやってる。
千葉 うわ。最悪じゃん。もうそれ替しじゃん。可哀想に。
秋生 あ、千葉君どう？入らない？
千葉 ありえねえだろ！
秋生 だって今もネタ出ししてくれてるわけだし、そしたらちゃんと部活になるし。
千葉 五味の監視とか、担任ってだけで人生終わってるからね？
秋生 いや、チェックしてくれるのも校長先生だし。
千葉 そもそも俺サッカー部だし。
秋生 だって、あんまり行ってたくない？
千葉 行ってるとか行ってないとかじゃないから。サッカー部ってことが重要だろ？
秋生 え、なんで？
千葉 は？モテるだろ。
秋生 え？
千葉 理由それだけ？
秋生 他になにが？

秋生 スポ薦。
千葉 すほせん？
秋生 なんてわかんなくなっちゃうの？

チャイムの音。

千葉 わあまじかあ……。あれ？ 今日何曜？
秋生 金曜。
千葉 やべえ！ 次長谷川さんじゃん！ よっしやあ！
秋生 どうしたの？
千葉 金曜五限は長谷川さんなんだよ！
秋生 どういう意味？
千葉 だから、金曜の五限目は、長谷川さんなの。
秋生 ごめん、全然情報が増えない。
千葉 金曜五限は長谷川さんが授業サボって保健室にいるんだよ。知らねえの？
秋生 へー。
千葉 月曜は三限、五限。火曜は二限、五限。水曜四限で、木曜は一限、三限。そして金曜五限！
秋生 記憶力。
千葉 ああ……。でも次安達かあ……。抜けられるかなあ……。いや、抜けてみせる！ 長谷川さんの為に、俺はどんな牢獄でも脱獄してみせる！
秋生 千葉君って長谷川さんのこと好きなんだ。
千葉 実はさ、俺、長谷川さんのこと好きなんだよ。
秋生 あうん。そう言った。
千葉 (笑)
秋生 大丈夫？ なんか怖いよ？
千葉 あ、やべ。ワックス持ってる？
秋生 持ってる。
千葉 マジかよ。誰か持ってたかな。じゃあまたね。
秋生 あ、うん。ネタ出し、ありがとう。

二人、去る。

■ 2場 二年六組の教室

同日。五限目。

安達、社会の授業中。

千葉、授業を抜け出すタイミングを探り、静かに教室を出ようとしている。

安達

そして、「生類憐れみの令」を發布したことで徳川綱吉は一躍有名になりました。諸説あるんだけどさ、戌年だったから犬を保護したなんて話もあるの。私は綱吉大好き。だってほら、私犬好きじゃない？

生徒達

安達

でも、どんどん厳しい法律にしちゃってね？殺生そのものがダメってなるまでに二十四年、合計百三十五回も改正されてんの。(笑)多いわ。ただ、この法律のおかげで捨て子や病人の保護が継続されてるっていうのは素晴らしいわよね。みんなも病人への思いやりは大切にね。千葉、なにしてるの？

千葉、ドア目前で止まる。

千葉

ちょっとお腹が痛いので保健室行っていいですか？

安達

ダメ。

千葉

え。

安達

はい、次は徳川家宣ね。「憐れみの令」に反対しやがったのでテストには出しません。

生徒達

え？

安達

はい、次。徳川家継。

安達、授業を続ける。

■ 3場 二年二組の教室。

同日。五限目。

戸井、古典の授業中。

長谷川、座っている。

戸井 万葉集は、歌の内容を――

生徒 声小さいでえす。

生徒 字も小さいでえす。

戸井 万葉集は、歌の内容を三つに分類してます。雑歌。相聞歌。挽歌。

長谷川

先生。

戸井 ……。雑歌は、一般的な歌と言われており――

長谷川 先生。

戸井 相聞歌は、男女の――

長谷川 先生。

戸井 ……はい、長谷川さん。

長谷川 十四巻にある東歌の説明もした方がよくないですか？

生徒達 出たよ。

戸井 あ、そ、それは、三つとはまた別の歌で――

長谷川 作者も不明な民衆の歌謡であり、それは規制に捉われず、生き生きとした生活が描かれて

いる、ですよ？

生徒達 知ってんじゃない。

戸井 そ、そうです。長谷川さん、いと頭が良かりはべり。

生徒達 え？

長谷川 先生。

戸井 はい……。

長谷川 保健室行って来ていいですか？

戸井 あ、具合が悪いですか――

長谷川 頭が痛い気がします。

戸井、何か言いたげに長谷川を見送る。

■ 4場 保健室

同日。五限目。

長谷川、新聞を読んでいる。

江角、マグカップ片手に雑誌を読みながら、長谷川の症状を聞いた。

江角 じゃあ気のせいだね。

長谷川 頭痛なんて医学的には気のせいじゃん。

江角 屁理屈とかいいから、教室戻りな。

長谷川 ヤダ。

江角 さすがにそろそろ気をつけた方がいいんじゃない？ 内申点に響くわよ？

長谷川 別に進学するかも決めてないし。

江角 え、もったいな。

長谷川 何したいかもわかんないし。

江角 へー。

江角、熱心に雑誌の占いを読んでいる。

長谷川 ねえねえ。いつまで付き合ってたの？

江角 ……は？

長谷川 古谷先生と。いつまで付き合ってたの？

江角 な……。

長谷川 知らない人いないよ？

江角 だから馴れ馴れしくするなって言ってるのに。

長谷川 いや、春休み中に江角先生の元彼異動してくるって連絡網回ってきたよ。

江角 誰だ。

長谷川 さあ。安達先生らへんじゃない？

江角 殺す。

長谷川 なんで別れたの？

江角 別になんだっていいでしょ？

長谷川 まあそうね。

江角 聞いてよお！

長谷川 なんで別れたの？

江角 ……なんでって言われると難しいんだけどね？ まあ結婚の価値観とか、方向性の違いですかね。

長谷川 バンドなの？

江角 バンドなんですかねえ？ わかんねえっす。長谷川さんは？ どんな男がタイプなの？

長谷川 完璧な情報を持つてる人。

江角 は？

長谷川 私が知りたいことを教えてくれる人。

江角 グーグルと付き合えば？

長谷川 グーグルが人だったら付き合いたいね。

江角 恋愛ってそういうもんじゃないんだよ？ お互い未熟なところを補い合う。知らないことを

認め合うことで愛が深まるの。私はそうしてきた。

長谷川 (新聞を見て) あ、また出た。

江角 聞きなさいよ。

長谷川 古谷、入ってくる。

江角 コンコン。

古谷 は？

江角 あのさ、ちょっと聞きたー

古谷

江角

古谷

古谷、長谷川と目が合う。

古谷
ん？

長谷川
こんにちは。

古谷
こんにちは。

長谷川
江角に）噂をすれば登場だね。

古谷
なに？俺の話してたの？

江角
してねえ。

古谷
取り込み中だった？ごめんね。

長谷川
いえ、暇つぶしてるだけなので。

古谷
暇つぶし？

江角
問題児なのよ。

古谷
へー。

江角
なに？

古谷
（長谷川に）こんにちは。古谷です。

江角
ちよつとやめて。

古谷
お名前は？

長谷川
長谷川です。

古谷
お？二年の長谷川さん？

長谷川
そうです。

古谷
へー、学年トップが授業サボって新聞読んで？イカしてるねえ。

長谷川
ありがとうございます。

江角
何の用？

古谷、座る。

古谷
なんで授業サボるの？

江角
おい、何を始めた。出てけ。

古谷
まあいいじゃん。コーヒーちようだい。

江角
カフェじゃねえ。

古谷、江角のマグカップを奪う。

長谷川
授業つまらないからってだけですよ。

古谷
ああ、そうだよ。わかる。

長谷川
え？

古谷
塾とか行ってるの？

長谷川
行ってないです。

古谷
じゃあ勉強は独学？

長谷川
独学っていうか、ネット漁ってればいくらでもあるじゃないですか。

古谷
なるほどねえ。俺も高校生の頃はそんな感じだったよ。新聞の方が面白いよね。

長谷川
古谷先生も新聞読みます？

古谷
読むよ。朝日、読売、産経の三つだけだけど。

長谷川
へー。

古谷
何かおもしろい記事あった？

長谷川
周波数。

古谷
周波数？

長谷川
最近、周波数の記事多くないですか？

古谷
確かにあったような気もするが、多くはないんじゃない？

長谷川
多いんですよ。私、最近周波数について調べてるんですけど、そしたら新聞にもやたらと

古谷 載ってて、流れ来てるんですよ。
長谷川 ああそれは残念ながら流れではないね。
え？

古谷 意識してる情報ってのは入りやすくなるんだよ。カラーバス効果って言います。
長谷川 カラーバス効果？

古谷 妊娠すると、やたらと妊婦や子どもが目に入るとかね。
へー。

古谷 (江角に) 知ってた？
江角 知らねえ。

長谷川 あの、固有振動数って知ってます？
古谷 ああ知ってるよ。(マグカップを指して) 物体を振動させた時に、その物体が出す特定の振動数。

長谷川 すごい。
古谷 面白いよね。

長谷川 そうなんです。これって全ての物体が固有の振動数を持っているってことじゃないですか。カップも椅子も。

古谷 そうだね。
長谷川 だったら人間も持つてると思います？

古谷 あー、考えたことなかったなあ。変動はするだろうから特定とは言い切れないが持つてるかもな。

長谷川 それ、ワクワクしません？
古谷 するな。

江角 二人とも、談話室とかでやったらどうですかね。
古谷 それちょっと昔に流行ったの知ってる？ 固有振動数を使ったパフォーマンス。

長谷川 パフォーマンス？
古谷 ワイングラスをね？ 声で共鳴させて割るの。

長谷川 どういうことですか？
古谷 物体(マグカップ)って、ピッタリ合った振動数を浴びると変形しちゃうじゃん？
はい。

長谷川 その要領でワイングラスを割るんだよ。声で割る？

古谷 (高音で) あー、って。
長谷川 ピッタリ出すんですよ？ 音声じゃ無理ですよ。

古谷 (江角に) あったよね？
江角 知らねえ。

古谷 お前はなんも知らないな。
あ？

古谷 知らないっていうのは出会いのチャンスなんだよ。興味を持つとうぜ？
江角 うっせえ。

長谷川、PCを出して調べている。

古谷、それを見る。

古谷 (江角に) この校則、お前の卵焼きくらい甘いな。

江角 黙って。マジで。

古谷 ビークワイエットってか？

長谷川 あ、(PCに目的のものを見つけ) これですか？
古谷 どれどれ？

長谷川と古谷、動画を見る。

長谷川 ジェイミーバンデラ……？
古谷 あー懐かしい。こいつロック歌手とか言って、ググっても全然出て来ないんだよ。
長谷川 怪し過ぎますね。
古谷 でもすごいんだよ。

江角、PCを覗く。
PCから、ジェイミーバンデラの高音とガラスが割れる音。

長谷川 え！？
古谷 おおー。
長谷川 なんて？
古谷 共鳴だよ。
長谷川 これ本当ですか？トリックじゃないんですか？
古谷 ワイングラス叩いてから声出してる所見ると、耳がいいんじゃないかな？
長谷川 これ私にも出来ますかね？

長谷川、棚に向かう。

古谷 (笑) その気持ちわかる。俺も当時やったけどかなり難しいんだよ。長谷川さんも家でやってみたらいいよ。
長谷川 (江角に) ワイングラス借りるね。

長谷川、棚からワイングラスを出す。

江角 ちょっと。割れたら怒るよ？
古谷 なんでワイングラスあるの？
江角 飲んでんの。
古谷 マジで？お前ワインなんか飲めないじゃん。
江角 一つの話してんの？今や血液赤ワインだから。

長谷川、グラスをピンツと弾き、音を聞く。
その音に近い音で声を出してみる。しかしなかなか割れない。

江角 なんかブスなんですけど。

長谷川、江角を睨む。
江角、小馬鹿にした表情。

長谷川 割れる気配全然ないですね。
古谷 まあそう簡単には割れないわな。

古谷は、棚からストローを一本取り、ワイングラスに入れる。

長谷川 なんですか？
古谷 バロメーター。ガラスが振動したらストローが揺れるよ。
長谷川 なるほど。

長谷川、もう一度グラスをピンツと弾き、声を出す。
ストローが揺れ始め、盛り上がる一同。
江角、流れてやってみるが、ストロー微動だにせず、テンションが下がる。

古谷 これ、周波数合わせるのもそうだけど、音圧の問題もあるかも知れないな。
長谷川 確かに。みんなでやってみましょ？
古谷 よーし。

江角、雑誌に戻っている。

長谷川 やらないの？
江角 興味ないから。二人でどうぞ。
古谷 ノリ悪い奴なんだよ。
長谷川 ですね。
江角 あ？
古谷 本気で行くぞ？
長谷川 お願いします。

古谷と長谷川、ワイングラスを両側から挟み、声を出し続ける。

チャイムの音。

千葉、廊下を走っている。

千葉 長谷川さーん！

千葉、保健室に駆け込んで来るが、事態を飲み込めず啞然。
千葉、絶叫。

千葉 いやー！

突如、保健室の窓ガラスが割れる。

三人 (割れたガラスを見て) 割れた！

江角と古谷、驚いている。
長谷川、嬉しそう。
千葉、古谷を睨んでいる。

■ 5場
過去

秋生、一人座っている。
藤、突如現れて、秋生に優しく声をかける。

藤 秋生君。

秋生 ……。

藤 大丈夫？

秋生 僕が悪いの？

藤 秋生君は悪くないよ。

秋生 ……良い子にしてたんだよ？

藤 そうだよ。秋生君は良い子だよ。

秋生 ……なに……なんでなの？

藤 秋生君が優し過ぎるんだよ。それに甘えちゃってるだけ。気にすることないよ。秋生君

秋生 は、そのままで大丈夫。

藤 ……藤君。

秋生 俺がずっと一緒にいてあげるから。俺が、秋生君を支えてあげるから。

秋生 ……ありがとう。

藤 秋生君。……秋生君。……秋生。

藤、秋生を呼び続ける。

時間戻って、二〇一九年五月十七日（金）同日。放課後。
藤と秋生が新聞の会議中。

藤 秋生。

秋生 え？

藤 聞いている？

秋生 あ、ごめん。なに？

藤 だから、野良犬が毒持ってるとか、そういう話じゃないの。

秋生 あ、そうだよ。ごめん。

藤 千葉特集にする？五味からの説教、ウンコ、長谷川に片思い。面白いじゃん。

秋生 でも千葉君生きていけなくなるらない？

藤 新聞の人気上げる為だったら一人の人生くらいしよがねえだろ。

秋生 藤君が、マスコミの危険思想に染まっている。

藤 冗談だよ。

秋生 なんだ、よかった。

藤 これくらい？

秋生 あ……いや、あの……

藤 ん？

秋生 一応、ある。

藤 聞かせてよ。よろ——

秋生 あ、でもちよつとこれはダメかもしれない。

藤 いや、聞いてから決めるから。はい、よろ——

秋生 あでもちよつと——

藤 なんだよ！

秋生 いや……、藤君って坂内先生のこと好き、だよ？

藤 まあ嫌いじゃないよ？

秋生 ああ……

藤 みんなから人気じゃん。

秋生 ああ……

藤 面白いし。

秋生 ああ……

藤 面倒見いいし。

秋生 ああ……

藤 優しいし。

秋生 ああ……

藤 あああああああ。

秋生 それ……嘘なんだよ。

藤 ……え？

秋生 坂内先生って、そんな良い先生じゃないんだよ。

藤 ……

秋生 そんなのダメだよ。ごめん。

藤 それ、面白くね？

秋生 え？

藤 本当ならスキヤンダルだよ！

秋生 ほ、本当だよ！

藤 聞かせてよ。

二人 お願ひします。

藤 坂内先生。

秋生 はい。

藤 生徒からよく悩み相談をされています。

藤 秋生 はい、千葉しかり、生徒の相談に親身に答えています。
秋生 それを他の先生たちに笑い話として話しています。
藤 ……え？
秋生 本来生徒の悩みというのは、絶対に他言無用です。なのに坂内先生は容易く漏洩してしま
す。
藤 マジで？
秋生 先ほど職員室の前にて聞こえてしまいました。その時の相手はおそらく安達先生と古谷
先生。
藤 聞き間違えの可能性は？
秋生 確実に坂内先生でした。千葉君をネタにして、爆笑をかつさらってました！

秋生、始終を話し始める。

■ 7場 職員室

二〇一九年五月十日（金）放課後。
坂内、安達と古谷相手に生徒の噂話をしている。
十七日の藤と秋生、聞き耳を立てる。

安達 本気ですか？
坂内 笑いこらえるの大変だったよお。
古谷 千葉君って学年でも下の下ですよね？
安達 下の下のゲゲゲよ。
坂内 そんな奴が早稲田だぞ？ スポ薦が何かもわかってないんだよ。
古谷 そりゃあ五味先生も怒りますよねえ。
坂内 坂内先生は何て言ったんですか？
安達 そりゃあ応援したよ。やれば出来る！ ってなもんだよ。
坂内 お優しい。
安達 いくら無理でも誰かが応援してあげなきゃ可哀想だろ？
坂内 だから坂内先生は生徒から人気なんでしょうね。
安達 ええ？ 別に人気なんかじゃないよ。
坂内 人気ですよお。
安達 まあ生徒たちの最後の砦的な感じにはなってるよな。
坂内 よ！ 我が校のメシア。
安達 アーメン。

安達と坂内、笑う。
古谷、遅れて愛想笑い。
藤と秋生、顔を見合わせる。
藤、スキヤンダルに高まる。

藤 マジかよ……。
藤と秋生、去る。

坂内 （時計を見て）おっともうこんな時間。（飲みマイム）今日は？
安達 行くに決まってるじゃないですか。
坂内 古谷先生は？
古谷 飲みですか？
坂内 当たり前だろお、おい。（飲みマイム）こうやってんだろ？
安達 江角先生にも声掛けて来ますよ。
古谷 あ、江角先生も行くんですか？
安達 あ、そっか。誘わない方がいい？
古谷 それは全然。
坂内 行こうよ、行こうよ。まだまだネタあるんだよお？
古谷 じゃあ行きましょうかね。
坂内 おお、いいねえ。

三人、帰り支度。

坂内 じゃああれだな。古谷先生もメンバー入りだな！
古谷 メンバー？
安達 よろしくな、新人。
古谷 はは。

三人、職員室から賑やかに去る。

■ 8場 体育館

二〇一九年五月二十日(月) 一限目。

坂内、体育の授業中。小脇にバレーボール。

藤、座って見学している。

坂内、笛を吹く。

坂内 ランニング終わった者から、二人組みになってトス練習う！

坂内、藤を見つめ、少し考える。

坂内 ……藤？

藤 はい？

坂内 具合大丈夫か？

藤 ちょっと寝不足なだけなので。

坂内 そうかそうか。どうだ少し身体動かすか？

藤 え？

坂内 柔軟くらいした方が、身体の調子も良くなるんだよ。どれ、先生とやろうか。な？

坂内、藤を海老反りにしようとしたところ、逆に海老反りにされる。

坂内 あらららららら。……ああ気持ち良い。……藤、新聞どうだ？

藤 ……。

坂内 千葉から聞いたぞ？ ネタ困ってるらしいじゃないか。いつでも相談しにきていいんだからな？

藤 ありがとうございます。

坂内、戻ろうとするが藤からガツチリ海老反りにされ続ける。

坂内 ああ気持ち良い！あと、進路とかも気軽にな？ 悩んだりしてないか？ いつでも相談こいよ？

藤 ありがとうございます。

坂内 ……。ちょっと先生、カタチ変わっちゃうぞお？

藤、坂内を解放する。

坂内、若干姿勢が良くなる。トス練習をする生徒に声を掛ける。

坂内 おい佐藤！ トスはもつと優しくだよ、お前！ こう卵を掴むように。藤、ちょっとボール投げてください。

坂内、藤にボールを渡す。

藤、坂内に山なりにボールを投げる。

坂内、優しくキャッチする。

坂内 こうだよ。まず優しく掴む。そこから、(ボールを藤に飛ばす) こうッ！ 飛ばそうと思うと安定しないから、まずはしっかりと――

藤、戻って来たボールを再び坂内に投げる。

坂内、藤からのボールを受け取る。

坂内 こう。からの(藤に飛ばす) こうッ！ わかったか？ ほら、みんなもやって――
(ボール投げる)

坂内 こう。からの（藤に飛ばす）こうッ！な？よし！じゃあみんなで――
藤 （ボール投げる）
坂内 こう。からの（藤に飛ばす）こうッ！な？先生ばかりやってもしょうがないんだぞ？へ
ラヘラ見てないで――
藤 （ボール投げる）
坂内 こう。からの（ボールを抱える）こうッ！はい、みんなやってみろお！

坂内、少し息が切れている。

藤 次は坂内先生は一面になりそうですよ。
坂内 ええ？一面ってそんなネタあるかあ？
藤 ビッグニュースですよ。
坂内 そうかそうか。頑張れよ？先生な、お前には期待してるぞ？
藤 ……。

坂内、藤に笑顔を決める。笛を吹く。

坂内 よーし！じゃあ試合するぞお！

坂内、笑顔で去る。

■ 9場 屋上

同日。昼休み。
二人、お菓子やジュースを飲み食いしている。
秋生、熱心にノートに色々書き込む。
藤、神妙な面持ちでノートを眺めている。

藤 おお……今までと聞こえ方全然違うよ。もはやどっかの宗教家にしか見えない。
秋生 そうだよね。
藤 これはすごいよ。こんなネタが欲しかったんだよ。
秋生 もっと早く藤君に見せてあげればよかったね。
藤 本当だよ！
秋生 あ、ごめん。
藤 早速ネタ出ししない？俺も坂内のネタ見つけてきたんだよ。
秋生 あ、僕も坂内先生のいっぱいあるよ。
藤 坂内どんだけだよ。
秋生 これ、いいんだよね？
藤 なにが？
秋生 いや、僕、ずっと坂内先生にモヤが見えてて、でも、みんなは坂内先生を好きなので、この新聞は、そんなみんなの気持ち——
藤 いいんだよ。秋生はこれをみんなに伝えたいでしょ？
秋生 ……うん。
藤 だったら書こうよ。この新聞で、嘘つきを懲らしめてやろうよ。
秋生 うん。
二人 お願いします。

屋上の壁に、ネタを書き込んでいく。

藤 五月十七日金曜日の夜、駅前の某居酒屋チェーン店にて。
秋生 はい。我が校の教師たちの出入りは有名です。
藤 坂内を中心に先生たちが集う、坂内一派なるものの集会が行われました。
秋生 通称、「坂の会」です。
藤 その中の坂内の名言です。「教師とは、生徒をアゲるD」だ」
秋生 アゲるの「アゲ」はカタカナ表記でどうでしょう。
藤 賛成です。おっさんD」のダサさが増します。その発言から場が盛り上がり「生徒は持ち上げとけば良い」だとか、「『わかる』って言葉は万能だ」とか、決め台詞として「君には期待してるよ」は効果的だとか……。
秋生 よく聞きますね。
藤 これも千葉の悪口に劣らず一面になり得るネタです。
秋生 そうですね。
藤 ただ二つ問題が。
秋生 問題。
藤 一つ目。こんな下世話なネタに校長が判子を押ししてくれるのか。
秋生 難しいでしょうね。
藤 二つ目。批判の対象が坂内ではなく、新聞になるかも知れない。
秋生 というと？
藤 確かに坂内先生の言葉は上辺だけのものですが、千葉しかり、そういう言葉で励まされている生徒がいるのも事実。それは宗教と同じで、坂内先生を潰す行為は、信者たちからの批判も食らう。
秋生 ……私は、坂内先生の暴露なんてすべきではないと思います。
藤 え、え？
秋生 坂内先生の記事を出すには、時期尚早だと考えました。

藤 秋生 話が見えませんか。詳しく教えて下さい。

藤 秋生 私は捻くって考えました。果たして坂内先生が悪いのか？問題は生徒じゃないのか？

藤 秋生 私たちが悪いと？

藤 秋生 いえ。問題は、周りがこう思っているから自分もこう、という生徒ではないでしょうか？

藤 秋生 坂内先生の言葉を吟味しない生徒がまずいのではないのでしょうか？

藤 秋生 どういうことでしょうか？

藤 秋生 藤君は、坂内先生の実態を知り、言葉を疑うことを覚えた人となります。対して千葉君は、対坂内先生に限らず、言葉について考えることをしない人となります。

藤 秋生 はい。

藤 秋生 では、この二人に噂が回ってきました。五味先生は人を殺したことがあるらしい。信じますか？

藤 秋生 信じません。

藤 秋生 なぜ。

藤 秋生 現実的に考えて。

藤 秋生 じゃあ、千葉君は？千葉君も信じませんか？

藤 秋生 いや、信じるかも知れません。

藤 秋生 なぜ。

藤 秋生 五味先生に対して恐怖があるから。

藤 秋生 そうです。先入観によって度が過ぎる噂も簡単に広まってしまいます。逆に、先入観に反する噂はあまり広がらない。

藤 秋生 なるほど。

藤 秋生 では問題です。今、生徒は藤君と千葉君、どっちが多いでしょう？

藤 秋生 千葉です。

藤 秋生 私たちが坂内先生の実態を叫んだところで意味がない理由はそれです。

藤 秋生 でも、何気なくそうなってるだけで、根っから千葉って人はそんなにいないと思います。

藤 秋生 そう！そんな多数決な社会に侵されている生徒を気付かせる。それが、今この新聞がすべきことだと思います！

藤 秋生 なるほど！

藤 秋生 準備が整った後、坂内先生のあるのままを暴露する。その瞬間、人々を夢中にさせる新聞に変貌するのです！

藤 秋生 ただその準備が最も課題です。坂内を疑わせたいが、まだネタには出来ない。

藤 秋生 いえ、ネタに出来ます。

藤 秋生 どうやって？先にも行った通り、この新聞は検閲があります。

藤 秋生 一部だけは通ります。

藤 秋生 一部？

藤 秋生 「教師とは、生徒をアゲるD」だ」

藤 秋生 居酒屋の一番の名言です。

藤 秋生 この言葉をプラスに書きます。

藤 秋生 プラスに？

藤 秋生 教師が生徒に歩み寄っているような、私たちの応援をしてくれているような？ そんな印象を与える記事にします。

藤 秋生 でも、そんなことをしたら坂内信者が増えて——

藤 秋生 そう！おそらく更に坂内先生の支持が上がることでしょう。でも？そんなに馬鹿な生徒ばかりではない。若干でもこの言葉に違和感を感じる生徒はいるはずですよ。

藤 秋生 なるほど。その生徒には、秘密裏に坂内先生の実態を——

藤 秋生 その必要はありません。

藤 秋生 え？

藤 秋生 そんなせこいことをしなくてもいざれ違和感は広がります。次の新聞はその一歩目。今後の記事で小さく生まれた違和感を増幅させていくんです。

藤 秋生 つまりこれからは、坂内先生の評価を上げ続けると？

藤 秋生 はい。上がった印象を更に上げる。上げ続ける。その先に生まれるもの。それは？

二人 秋生 (笑)
秋生 これはわかりやすく嘘を伝えられます。
藤 わかりやすいですが、検閲が心配です。
秋生 得意じゃないのに教師になれたという優秀さを書きます。
藤 なるほど。嘘が影に隠れますが、坂内先生が嘘をつくという情報は与えられるわけですね。
秋生 さすが、理解が早い。
藤 掴んできました。
秋生 次行きます。戸井先生。
藤 さん、坂内先生以外も？
秋生 坂内先生だけ書いていたら怪しまれます。
藤 失礼。続けて下さい。
秋生 戸井先生。
藤 はい。
秋生 毎月第一金曜日、早退しています。
藤 はい。好きな俳優のニコ生に参加しているという話です。
秋生 (微笑み) ニコ生参戦。
藤 お？
秋生 ご一緒に？
二人 嘘でした。
藤 そうなんですか？
秋生 実は、入院中の母親の検査のため早退しています。
藤 初耳です。
秋生 戸井先生の意向で学校側も隠しています。
藤 これは、なんと。素敵な話です。
秋生 戸井先生からストツプがかかるかも知れませんが、このネタが出せたら新聞の方向転換が随分プラスのイメージになるでしょう。
藤 私が直接説得します。
秋生 心強い。次、安達先生。
藤 坂内一派の若頭です。
秋生 お喋りが好きで、一度話し始めたなら誰も止めることは出来ません。
藤 現代には珍しい根っから明るい人間です。
二人 ご一緒に？
藤 嘘でした。
秋生 どの部分ですか？
藤 実は、超根暗です。
秋生 え？
藤 極度の寂しがり屋で、常に誰かに喋っていないと不安になる人種のようなのです。
秋生 なんと不憫な。
藤 しかし、好きになった男性に嫌われることが怖く、自分を隠し、我慢を重ねた結果、ストーカーに成り果てた過去もあります。
秋生 安達先生には少し優しくなれそうです。
藤 ちなみに、最近話題の迷い犬ですが、
秋生 はい。
藤 安達先生の犬でした。
秋生 え!？
藤 一人になっても寂しくならないように、いつでも見れるように校庭に放し飼いにしています。
秋生 重症じゃないですか。
藤 名前は、「木下一(きのしたはじめ)」
秋生 もしかして……

秋生 元彼の名前です。
藤 オーマイガー。
秋生 彼女に関しては、どう書いていいのかわからない状況です。
藤 私からも一ついいですか？
秋生 なんと。お願いします。
藤 古谷先生。
秋生 はい。今年度より異動してきた坂内人気を脅かす英語教師。江角先生の元彼ということでも話題の渦中です。
藤 女子の間で、オシャレである、と話題になっており、本人もファッションにはこだわりを持っていろいろです。
秋生 おもしろい。ファッションのこだわりが？
二人 嘘でした。
藤 服を選ぶセンスが皆無で、未だに江角先生のアドバイスの元、服を選んでいきます。
秋生 江角先生の名前は伏せて、コーデイナーがいる、という書き方はどうでしょう。
藤 賛成です。ちなみに家では全裸です。
秋生 なるほど。古谷先生は、今後フルチンと呼びましょう。
藤 男子からの人気も上昇します。
秋生 では、最後です。
藤 お願いします。
秋生 江角先生。
二人 いくらでもありそうですね。
藤 好きなお酒をカルアミルクと公言しています。
秋生 これはとてもわかりやすい。
藤 う……
※秋生 本当でした。
藤 え！？ だって、保健室でのワインや、一人晩酌の噂もあります？
秋生 ワインもオレンジジュースで割り、一人晩酌はカルアミルクをジョッキでいっています。
藤 ただの甘党ですね？
秋生 これは嘘だと思っていたことが嘘じゃなかったという、嘘へのスパイスになるかと。
藤 面白素晴らしい。
秋生 以上です。
二人 お疲れさまでした。

藤と秋生、壁に書かれたネタを見渡す。

藤 おいおい……。
秋生 どうかな？
藤 最高だよ。おもしろい！
秋生 本当に！？
藤 これならみんな読みたくなるし、先生たちだって文句ないだろうし。
秋生 よかったあ。
藤 なにより、秋生がこんなに出来るなんてビックリ。
秋生 必死だったよ。このままじゃ藤君やめちゃうって思ったたら、もう人の目なんて気にしてる場合じゃなかったよ。
藤 秋生だってやれば出来るんだよ。
秋生 そうだね。藤君が喜んでくれる為だったら頑張れる。
藤 いやいや、俺じゃなくて新聞の為でしょ？
秋生 まあそうなんだけど、藤君なんだよ。

五味、入ってくる。

五味 おい。もう昼休み終わるぞ。
藤 あ、すみません。すぐ戻ります。
五味 屋上もあまり使うな。
藤 はい、すみません。

五味、去る。

藤 ビビったあ。そういえば、これ五味先生のネタないね。
秋生 そうなの。っていうか五味先生って全然曇らないんだよね。
藤 え、マジで？ 一番なんかありそうなの。
秋生 そうだね。
藤 だったら直接対決じゃない？
秋生 え、取材？ 僕には無理だよ。
藤 出来るよ。それに、俺が行っても意味ないだろ？
秋生 ええ……一緒に来てくれる？
藤 わかったよ。じゃあ今日の放課後。
秋生 うん。
二人 行ってみましょう。

二人、去る。

■10場 職員室

同日。放課後。

安達と戸井、仕事をしている。

戸井、少ししてスマホでゲームを始める。

安達 ……何かあったの？
戸井 え？

安達 戸井先生が職員室でゲーム始めちゃう時は、大体現実世界が嫌になった時じゃない。何が
あったの？怒られた？誰から？五味先生？え、なんてなんて？私も先週怒られたの。う
るさいって。何がよ。ちょっと独り言つぶやいた程度でうるさいなんて言われたらどうし
たらいいのよ。

戸井 (首を振る)

安達 違うの？じゃあ坂内先生？坂内先生のはあれよ？戸井先生の為を思ってた言ってくれてるこ
となのよ？きつと。

戸井 (首を振る)

安達 え、違う？校長？校長って元ヤンキーらしいよ？ドラマかよ！

戸井 (首を振る)

安達 じゃあ誰よ？

戸井 長谷川さんです。

安達 まさかの生徒。あらビックリ。長谷川さんから怒られるってなに？どういう上下関係？

戸井 怒られたんじゃないよ。

安達 あ、なに？早く言っつてよ。怒られ話でロックオンしちゃったわよ。で、なに？長谷川さん
がなに？

戸井 長谷川さんって、授業ですっごい質問してくるじゃないですか？

安達 そう？

戸井 私はしょっちゅう質問されるんです。

安達 へーいいなあ。

戸井 私それに答えるじゃないですか。

安達 そうね。そりゃあ答えるわよね。

戸井 でも私、いつもテンパっちゃって、頭ではわかってても、上手く答えられなくて、そうす
ると長谷川さんが怒って保健室行っちゃうんです。

安達 えー、なにそれ。こっわ。
行かないですか？保健室。

戸井 行っしたことない。私、怪我とかしたことないから。

安達 あ、長谷川さんです。

戸井 ああそっち？今年長谷川さんの授業持ってないし。

安達 え？安達先生担任ですよ？

戸井 え？私担任なの？長谷川さんって二組なの？

安達 二組ですよ。

戸井 うっそ。ビックリ。今知った。じゃあ私授業持つてるじゃない。見たことない。あはは。

安達 え、なに？長谷川さんのことで落ち込んでんの？そんな生徒の言動気にしてたらやっつら
んないわよ？

戸井 でも……

安達 いい？生徒なんて川の流れるように過ぎ去っていくんだからね？いちいち手ですくって愛
でもしようがないの。ジャブジャブして終わりよ。これ坂内先生には言わないでね？

戸井 私悔しくて。

安達 悔しい？

戸井 どうしたらいいですか？

安達 なにをよ。

戸井 どうしたらいいですか？

安達 なにをよ。

戸井 どうしたら長谷川さんに勝てますか？

安達 勝ちってなに？

戸井 それは……長谷川さんの納得行く答えを——
安達 無理ね。
戸井 え。
安達 だってあの子めちゃくちゃ頭良いからね？なんでこんな学校いんのよ。私立行け私立。
戸井 でも勝ちたいんです！
安達 あら熱いわね。やだ。心動かされちゃう。でもあれよ？見栄を張らないことよ。
戸井 見栄？
安達 まともに勝負したってどうせ言い負かされるんだから、もう素直になっちゃえばいいのよ。
戸井 素直……。
安達 素直が一番。素直でいれば味方が増えるもんよ。そうなの。もっと素直になれば私だってハジメ君と上手く行ったかもしれないのに。
戸井 ハジメ君。
安達 なんでなの？なんで私はあの時素直になれなかったの……？
戸井 あ、なんかごめんさい。

古谷、入ってくる。

古谷 お疲れ様です。
安達 お疲れ。
戸井 お疲れ様です。
古谷 江角先生いませんか？
安達 保健室は？
古谷 いないよ。
安達 見回りじゃない？
古谷 そんなのあるんですか？
安達 知らんけど。
古谷 そっかぁ……。
安達 なんか用？
古谷 いや、秋生君のこと聞きたくて。
安達 ちよつとさぁ……あんまり詮索するのやめなさいよ。
古谷 なんですか？
安達 だって古谷先生、何やらかすかわかんないじゃない。
古谷 そんな、変なことしませんよ？
安達 しそうなの。私たちが上手く付き合ってるんだから、そのペースに合わせて。
古谷 安達先生なにもしてないじゃないですか。
安達 あ、ちよ、あ、なにそれ。何もしないことをしてるんだから。
古谷 え、なんですか？劇場版くまのプーさんですか？
安達 坂内先生が率先して対応してくださってるの。私はそのフォローなの。
古谷 坂内先生の対応もどうかと思えますけどねぇ……。
安達 おい、坂の会としてあつてはならぬ発言だぞ？
戸井 でも、最近チェンジ増えてるみたいですよ？
安達 え、嘘でしょ？こっわ。
古谷 怖いって言い方はないでしょ。
安達 とにかく。興味本位で勝手なことしないでって話ね？秋生君だって可哀想だから。
古谷 可哀想ねぇ……。じゃあお先失礼します。
安達 はい。
戸井 お疲れ様です。

間。

安達 ねえ、友達になつてくれない？
戸井 ……え？

安達 「どうぶつの森」。

戸井 あ、やってるんですか？

安達 いや、戸井先生の見たら気になっちゃって、始めてみたの。

戸井 え、本当ですか？じゃあフレンドになりましょうよ。

安達 え、なりたい。友達欲しい。

戸井 え、全然進んでないですね。

安達 だって意味わかんないんだもん。これ、動物みんなわがままじゃない？平気でダンスくれよ、とかさ。しかも私が作るってなに？わしゃイケアか。

戸井 安達先生、ゲームとかやるんですね。

安達 やるわよ。

戸井 他になにやるんですか？

安達 数独とか、クロスワードとか。

戸井 え、それゲームって言います？

安達 言うでしょ。他になんて言うのよ？リハビリ？やめなさいよ。

戸井 おすすめのアプリありますか？

安達 あー、アプリはあんまりやらない。私紙派だから。アプリってすぐ課金させようとしてくるでしょ？なにあれ。その気にさせておいてちよつと気を許したら金よこせて。ハジメ君なの？ハジメ君……。

戸井 アプリゲームに課金するのってどう思いますか？

安達 え、しちゃうの？

戸井 ……結構しちゃうんです。ガチャとか歯止めが効かないんです。

安達 バカねえ。相手の思う壺じゃない。え、え、いくらくらい？ガチャにいくらつぎ込むの？

戸井 先月は五万くらい。

安達 ご……ご……。

戸井 ……ヤバイですよ。

安達 いや、ヤバいつていうか、それはヤバイよ。つてかちよつと待ってよ。戸井先生ってなんか舞台とかもよく行ってるわよね？

戸井 そうなんです……。先月も舞台三本重なってて、全通して、物販買って、ガチャとか歯止めが効かなくて、結局二十万くらい使っちゃいましたよ。

安達 ニー！え、え、え、給料どうなってんの？ほぼ一緒よね？

戸井 一緒っていうか、私の方が少ないですよ。

安達 ちよつと待ってよ。私、そんな使ったら食事豆のみになるわよ？

戸井 豆にしても、行かなきゃいけない舞台が立て続けだったんです。

安達 ……そうか。ならば何も言うまい。

戸井 ……。

二人、ゲームに戻る。

五味、入って来て黒板を消し始める。同時に安達は慌ててゲームを隠す。

安達 あ、お疲れ様です！

五味 お疲れ様です。

安達 あ、手伝います！

五味 ……。

安達、面倒臭そうに黒板を消し始める。

五味、黒板を消している途中に、ゲームを続けている戸井を見つめる。

五味 架空世界で楽しむより、現実楽しんだ方が有効的だと思いますけどね。

戸井、ゲームをやめ、ふてくされる。
坂内、入ってくる。

坂内 お疲れ様です。

一同 お疲れ様です。

坂内 あ、五味先生。あのお……

はい。

坂内 さつき廊下で泣いている生徒がいましたね？ 話聞いたらあのおー、五味先生があふにゃふにゃ、つと行ってましてね？

私が？

はい。

ふにゃふにゃ。

坂内 いや、五味先生があふにゃふにゃとは言っていないんですけど。まあなんか酷いこと言われた的な？ 何か言ったんですか？

成績が悪い生徒に、勉強しろ、と言うのは酷いことなんですか？

坂内 そんなことないですよ？ ただ五味先生の場合は、その……どうやって言ったんですか？

馬鹿なんだから、早く帰って勉強しろ。

言い方なんだよなあ……。

坂内 端的に伝えた方が良いと思いますが。

でもそれ、ちよつと可哀想じゃないですか？

坂内 そうですかね？ 自分の馬鹿さに気付くまでの時間が延びる方が可哀想だと思いますが。

でも、生徒に寄り添ったやり方ってのが大事じゃないすかねえ？

坂内 そうですね。でも、それは授業内だけでいいでしょう。

授業外の時間が大事なんですよお。

坂内 授業以外まで教師と接してどうするんですか。生徒たちにはもつと視野を広げてもらわないと。

それを育んであげるのが教師じゃないですか。

無理ですよ。所詮は教師。人間性を育むのは親の役目です。

固いなあー。そんなんじや生徒からの人気出ないですよお？ (安達に) ねえ？

安達 ええへへ。

五味、坂内に歩み寄る。

坂内 あ……ごめんなさい。

坂内 先生の人気の秘訣はなんですか？

え？ いや、人気だなんて……

いえ、人気です。

(威圧感にビビる) あ、ありがとうございます。

何か私を気をつけるべきことはありますか？

まあそうですね……五味先生はもつと笑った方がいいんじゃないかと思えますね。

笑う。冗談などは言えないですよ。

ちよつと口角上げるだけでも違うと思えますよ？

……そうですね。

ちよつとやってみて下さいよ。

……。(口角を上げる)

おお。い、いいじゃないですかあ。

職員室をノックする音が聞こえる。

藤 失礼します。

藤と秋生、入って来る。
安達と戸井、警戒する。

坂内 おおーどうした？
秋生 あの……。五味先生に用があつて。
坂内 え？あ、五味先生。
五味 はい。
坂内 えつと……。秋生です。
五味 はい。
安達 あ、私お先に失礼します。
戸井 あ、私も。
坂内 え。安達先生、進路相談は？

戸井と安達、足早に去る。
五味、秋生に近寄る。

五味 なんだ。
秋生 あの。新聞部なんですけど、インタビューいいですか？
五味 無理だ。
秋生 え。
五味 じゃあ。
坂内 (五味を止めて) おおおお。
坂内 なんですか？
五味 いや、今のはちょっと秋生が可哀想じゃないですか？ (小声で) 口角。口角。
藤 ……インタビュなんてされても、話すことはなにもない。(口角を上げる)
秋生 少しだけでも、ぜひ。
坂内 別に、おもしろい話とかはいらないんで。
秋生 おもしろくない話が記事になるのか？
坂内 口角。
秋生 (口角を上げる)
五味 いや、何か出てくるかも知れないので。
坂内 時間の無駄だ。
坂内 口角。
五味 (口角を上げながら) だったら他に時間使え。
坂内 秋生お、ちょっと五味先生はこういうの苦手だからな。俺が受けて――
五味 苦手ではないです。
坂内 うーん。
秋生 じゃあインタビューを。
五味 無駄だと言ってるんだ。(口角を上げる)
藤 えーつと……
坂内 すまんが、もう面談の時間だ。

五味、去る。

藤 どうする？
秋生 ……。
藤 (坂内に) 先生。
秋生 え、え、坂内先生はやめよ？
藤 五味先生のこと聞くだけだよ。
秋生 いや、見るだけで気持ち悪く――
藤 秋生、新聞のためなんだよ。

坂内 秋生 どうした？
秋生 …… インタビューいいですか？
坂内 ああ、いいぞお？ そうだなあ。 何がいいかなあ。
秋生 五味先生のことどう思いますか？
坂内 五味先生？ あれ、俺のことじゃないの？
秋生 五味先生ってどんな人ですか？
坂内 ああ…… そうね。 不器用な人かな？
秋生 不器用。
坂内 さっきもそうだけど、表現の仕方が不器用というか、ストレート過ぎるよな。
秋生 なるほど。
坂内 知らないところで努力してるようなタイプじゃないのか？
秋生 いいですね。 例えばどんな？
坂内 知らないところで言ってるんじゃないよ。 知らないよ、そんなの。
秋生 …… 他は？ 何かエピソードありますか？
坂内 あー。 もうないかな？
秋生 え？
藤 秋生 もうないんですか？
坂内 だって飲みとかも行ったことないし。 正直、付き合いは悪いよな？
秋生 そうですか？
坂内 あれだよ？ 俺は結構誘うんだよ。 でも全然。 食い気味で「結構です」ってなもんだよ。
秋生 「五味先生、今日このあととか—— 結構です」(笑) 似てるだろ？ ここだけの話な？ あんまり仲良い先生もいないんだよ。 だからさ、せめて俺だけはさ、コミュニケーション取りたいなあって話しかけるんだけど、イマイチなんだよ。
坂内 はあ。
秋生 俺はさあ、昔から誰とでも話せるタイプでな？ まあ自分で言うのもあれだけど、鼻負しな
坂内 いっていか、みんなあと仲良くしたいんだよ。
秋生 ああ、坂内先生の話は大丈夫です。
坂内 まあ聞けて。 いいか、秋生。 お前は友達に対して積極的なタイプでもないだろ？ やっぱ
坂内 ！自分の殻っていうのは——
坂内 非常ベルが鳴る。
坂内 なんない。
藤 秋生 火事かな。
坂内 さあ。
坂内 ちよつと様子見て来るから待ってろ。
坂内、去る。
犬の鳴き声がする。
秋生 どうする？
藤 秋生 あいついつの間にか自分の話するから、もういいよ。
秋生 五味先生の情報なさそうだもんね。
藤 秋生 五味先生、面談終わるの待つ？
秋生 っていうか五味先生なんか……。
藤 秋生 ん？
秋生 …… いや、なんでもない。
藤 秋生 …… 今日はこのくらいにしとこうか。
秋生 うん。
藤 秋生 じゃあ帰ろう。

藤と秋生、
去る。

■ 11場 二年二組の教室

二〇一九年五月二十日(月) 二限目。

戸井、古典の授業中。

長谷川、座っている。

戸井

中世には隠者による文学が多いです。隠者とは、一人山奥で暮らす人のことを言います。生きていることの不安から逃げたんです。その中でも、鴨長明の「方丈記」、兼好法師の「徒然草」が有名です。

長谷川

先生。

戸井

……はい、長谷川さん。

長谷川

両者とも仏教的無常観が根底にありますが、二人の違いはなんですか？

戸井

わかりません。

長谷川

え？

戸井

中世には女性の作品が少なくなります——

長谷川

先生。答えになってないんですけど。

戸井

だって……だって……知ってるじゃないですか。答えようと思っても、先に言っちゃうじゃないですか！ どう答えればいいのか、私には、もう、わかりません！

戸井、泣きながら逃げ出す。

同日。二限目。

長谷川、ノートを片手に江角に話す。

江角、爪の手入れをしながら片手間に聞く。

長谷川 わかんなくてもいいから聞いて？

江角 えー。そういうのは古谷先生にやってよお。

長谷川 じゃあ呼んでよ。

江角 授業中でしょ。

長谷川 じゃあ江角先生で我慢するしかないじゃん。

江角 あんた社会出るとき気をつけなさいよ？

長谷川 この前ガラスが割れたじゃない？

江角 割れたあ。副校長にめっちゃ嫌味言われたあ。

長谷川 私ね？ガラスが割れたように、人も変形するんじゃないかって思うの。

江角 え(笑)こわあ。

長谷川 真剣に。

江角 あはい。

長谷川 人が出す固有振動数にピッタリの振動数があれば、ガラスと同じように変形するってこと

江角 じゃない？

長谷川 言ってる意味はわかるけど、実際無理じゃない？

江角 なんで？

長谷川 だってガラスは動かないけど、人は動くよ？それって固有振動数が変化していくわけだし

江角 よ？無理でしょ。

長谷川 人が止まればいいじゃん。

江角 はあ？心臓が動くでしょうが。

長谷川 コンマ何秒の単位だったら？

江角 は？

長谷川 ゼロコンマゼロゼロゼロイチ秒とかなら止まってる瞬間もある。

江角 じゃあ血液は？流れっぱなしですけど？

長谷川 じゃあゼロゼロゼロゼロゼロゼロ——

江角 やめろ！子どもか。

長谷川 とにかく一瞬だよ一瞬。一瞬でも合えば共鳴出来ると思う。

江角 じゃあ仮に共鳴したとして？どうなるの？ガラスみたいにパリンって？いかないでしょう

長谷川 ね。なぜなら？人間には弾力があるもん。(二の腕を揺らし)見て？ブルンブルン。

江角 割りたいんじゃないの。

長谷川 ん？

江角 私は変化させたいの。

長谷川 なに？

江角 話変わるんだけどね？

長谷川 私、そろそろ限界だよ？

江角 人体に影響のある周波数って知ってる？

長谷川 知らなあい。

江角 テレビの周波数は身体に悪いとか。440Hz。

長谷川 へー。

江角 周波数によって全く違う効果があるの。

長谷川 身体に良いものもあるの？

江角 528Hz！ソルフェジオって呼ばれています。人として理想的になれたり、治癒能力もある

長谷川 んですわねえ。

江角 へー。周波数に治癒能力が実証されたら、私の存在無意味だね。

長谷川 ジョン・レノンがこの周波数を使って作った曲があります。さて、なんででしょう。チツチ

長谷川 ツチツチツ……

江角 あんた自習の時間とかに授業やれば？
長谷川 ぶー。正解は、イマジンでした。
江角 え、好き。

長谷川 二日酔いとかにもいいんじゃない？
江角 ヘビロテしよ。

長谷川 昨今では、放射性物質で損傷したDNAさえも修復出来るのでは？と言われております。
江角 マジで言ってるの？

長谷川 周波数が人体に影響を与えることはもう当たり前の事実なわけ。だったら？人体からも同じ周波数を出せば？共鳴が生まれるよね？

江角 ……人体がソルフェジオを出す瞬間に、ソルフェジオを共鳴させる？
長谷川 そう。その結果、人は変化する。

江角 どのように？あんたの言うその変化ってなんなの？
長谷川 頭良くなるとか？

江角 (笑) それいいね。

長谷川 というわけで、先生実験台になってよ。
江角 ヤダよ。私、今のままで充分。

長谷川 先生、大したことないよ？
江角 やめなさいよ。

長谷川 お願いだよお。
江角 イヤだ。

長谷川 じゃあ、誰か良さげな生贄いない？
江角 それって人格変わっちゃう感じ？だったら古谷先生。もう根本から変えて欲しい。

長谷川 ダメだよ。古谷先生こっち側だもん。
江角 あら、なんだか信頼してらっしゃること。

長谷川 何も考えないでやってくれるポンコツがいいの。
江角 それ私でやろうとしたのよね？

チャイムの音。

長谷川 じゃあよろしくね？
江角 はいはい。

長谷川、去る。

■ 13場 職員室

同日。放課後。

坂内が戸井に指導中。隣で安達が聞いている。

坂内 ね、戸井先生。わかんないって言っちゃったら生徒困っちゃうじゃない？

戸井 ……。

坂内 じゃあわかった。わかんないって言っちゃったのはともかくとして、授業逃げ出すのは今後気をつけられますか？

戸井 ……。

坂内 別にね？説教してるわけじゃなくて。もうやらないって言うてくれたら私も安心出来るだけなんですよ。

戸井 ……もうやりません。

坂内 あそうですか！よかったよかった。ちなみになんでなのかなあ。なんでそんなことしちゃったのかな？

戸井 安達先生が言いました。

坂内 え？

安達 え？ちょっと、嘘でしょ？何を？何も言ってますせん。

戸井 素直になれって言われました。

古谷、入って来る。

安達 ちが、それは違うじゃない！素直になれって言ったら逃げ出すなんて聞いてないんですけど！

古谷 お疲れ様です。

坂内 安達先生、言ったんですか？

安達 いや、違うんですよ。そういうつもりで言ったわけじゃ——

古谷 坂内先生。

坂内 ん？ああお疲れ様。

古谷 お取り込み中すみません。生徒が坂内先生呼んでくれて。

坂内 ああそうか。じゃあ戸井先生、今日はもう結構ですので。

戸井、イヤホンをつけ、スマホでアニメを見始める。

坂内、去る。

安達 ちょっと、私のせいみたいに言うのやめてよ。ごめんね？私が悪いの？

古谷 (戸井のスマホを見て) 何見てるんですか？

戸井 え？

古谷 僕、アニメ結構好きなんですよ。

戸井 あ、シナスタンジャーです。

古谷 ああ！

戸井 え、見てますか！？

古谷 いや、見てないんですけど気になってたんですよ。

戸井 結構おもしろいですよ？

古谷 でも、なんか変な戦隊モノですよね？

戸井 いや、敵キャラの特殊能力が良い感じなんです。

古谷 良い感じって？

戸井 相手に触れるだけで弱点が見えるんです。

古谷 ええ？都合良いですね。俺、ご都合主義とかダメなんですよねえ。

戸井 ちが、違うんです！それが良い感じなんです！

古谷 え？

戸井 共感覚って知ってます？

古谷 ああ知ってますよ。
戸井 なんと、敵の親玉が共感覚者なんです！
古谷 へー！あ、だからシナスタンジャーか。面白そうですね。
戸井 なになにに？きょうかんかく？感覚強いのか？
古谷 違いますよ。
戸井 共になる感覚ですね。
安達 五感に境目がないんです。
古谷 どうのこと？
安達 味に手触りを感じちゃったりとか、文字見て匂い感じちゃったりとか。
古谷 へー。アニメっぽい設定だねえ。
安達 いやいや、これリアルにいるんですよ？
古谷 リアライ？
安達 イエスイテイズ。
古谷 意味わかんない。
安達 子どもの頃は誰でも共感覚らしいですよ。
古谷 私も？
安達 あなたも。人格形成と一緒に五感が分かれていくんですけど、何万人に一人か、共感覚のまま大人になるんですって。
戸井 へー。
古谷 シナスタンジャーの敵キャラは触覚と視覚が繋がって、相手に触ると弱い部分が見えるんですよ。
古谷 敵がそれは熱いですね。
戸井 そうなんです。弱い部分があったり、考え方だったり、その主人公たちの弱さをエグるような刺客を次々送り込んで来るんです。
古谷 ずっちー。
戸井 その親玉が抱えてる闇というか、憎しみみたいなものがよくわからないというか。古谷先生見てみてくださいよ。
古谷 今日早速見ます。
戸井 お願いします。
古谷 戸井先生この後は？
戸井 え？
古谷 もう帰るんだったら一緒に見ましようよ。
戸井 え……え……。
古谷 うち来ませんか？
戸井 そ、そ、そんな……、古谷先生のおうちに？私が？い、いけませんよ。江角先生の、その、過去があるわけですから、そこに私が――
古谷 父親がホームシアター揃えてるんで大画面で観れますよ？
戸井 実家かよ。大丈夫です。
古谷 え、そうですか？じゃあお先に失礼します。

古谷、去る。

安達 ねえ、飲み行かない？
戸井 え？
安達 たまにはどう？私たち結構話し合いそうじゃない？
戸井 ……行きます。
安達 あ、本当？嬉し。
戸井 私、飲み会とか大学生ぶりですよ。
安達 え、そうなの？お酒飲めない？
戸井 よくわかんなくて。
安達 じゃあ焼酎教えてあげる。ハマったら抜け出せなくなるから。

戸井 安達 戸井 安達 戸井 安達

あ、はあ。
古谷先生のこと好きなの？
え？
あ、聞いちゃった！飲みで聞こうと思ってたのに。好きなの？
まさか。男性に家に誘われたっていう現象にテンパっただけです。
ああそうね。でもさ、戸惑いから始まる恋もあるじゃない？ ハジメ君……。

二人、出て行く。

二〇一九年五月二十一日（火）昼休み。
千葉、屋上から校庭を眺めている。
藤と秋生、原稿を確認しながら入ってくる。

藤 あともう一つか二つか欲しいところだね。
秋生 あ、昨日、戸井先生が授業逃げ出したらしい。
藤 え、なんで？
秋生 長谷川さんに追い詰められたって。
千葉 ウケるな。
藤 はあ……。
秋生 ……？
藤 あと、一昨日の非常ベルって誤作動じゃなくて安達先生が押したらしいよ？
秋生 え、なにそれ。
藤 さあ。魔が差したとか言ってたらしいけど。
秋生 先生のストレスってすごいんだろうね。

千葉、二人の間に座る。

千葉 はあ……。
藤 は？
千葉 はあ……。
藤 なんだよ。
千葉 はあ……。
藤 邪魔なんだけど。
千葉 邪魔とか言うなよ。心配してくれよ。
藤 心配？
千葉 なんで昨日休んだの？とか。
藤 昨日休んだの？
千葉 休んだよ！なんで知らねえんだよ。
藤 知らねえよ。
秋生 大丈夫？ 風邪？
千葉 心配してくれてもいいだろう？
藤 秋生が心配してくれてるだろうが。
千葉 まじかよ。秋生は優しいな。俺は藤よりも秋生が好きだよ。
秋生 あ、ありがとう。
藤 もう風邪治ったの？
千葉 風邪なんかじゃねえよ。……病だよ。
藤 同じじゃね？
千葉 これは、恋の病だよ。
藤 ……は？
千葉 長谷川さんのことなんだけどさ……。
藤 振られたの？
千葉 ちげえよ！ いや違わないのか？ これはもはや失恋なのか？ 失恋。迫るサイレン。愛しの笑顔がリフレイン。
藤 ちよっと上手くなってんじゃねえよ。
秋生 何があつたの？
千葉 先週さ、長谷川さんに会いに保健室行ったんだよ。
秋生 うん。
千葉 そうしたらさ……。古谷先生わかる？
藤 ああ、フルチンね。

■ 15場 保健室

同日。昼休み。

古谷、藤と秋生から取材されている。

千葉、古谷を睨んでいる。

江角、不安そうに見ている。

古谷 誤解です。それは長谷川さんが――

千葉 言い訳すんじゃないよ！

古谷 はい。

藤 長谷川さんと保健室にいたのは事実ですか？

古谷 それは事実です。でも江角先生もいました。

千葉 え……。サンピツ、サンピツ……

江角 バカじゃないの？

古谷 実験してたんだよ。

千葉 実験！？長谷川さんを実験！？

古谷 ちょっと違うんだよなあ。

千葉 何が違うんだよ！ワイングラス越しにたまらない状況だったじゃねえかよ！

藤 ワイングラス。

千葉 こっちのガラスとそっちのガラスで、曇り合った隙間からのアイラブユーってな具合だったろ！？

古谷 すごい表現だね。

藤 それはやばいですよ？

古谷 違うの。二人で共鳴の実験してたの。

千葉 なんだよそれ。勃起だよ！

古谷 ああ違う違う。固有振動数の共鳴っていう――

千葉 何言ってるかわかんねえんだよ！どうせその後、あの……。あれだろ？その……。うおおお！

秋生 千葉君、少し落ち着こうよ。

千葉 もう終わりだよ。教師なんて信じられないよ。

藤 お、それは良い傾向だね。

古谷 千葉くうん、信じてくれよお。

千葉 うるせえ！触んな！

古谷 どうしたらいいの？

江角 思春期は放っておくのが一番いい。

千葉 ふざけんなよ。長谷川さんと実験の仲ってなんだよ。エロすぎるわ。俺だって長谷川さんと実験の仲になってえよ。

江角 え、実験されたいの？ 千葉、長谷川さんから実験されたい？

千葉 は？されてえよ。めちゃくちゃに改造されてえよ。

江角 じゃあ今日の放課後保健室来なよ。

千葉 え、なんで？

江角 長谷川さんが待ってるよ。

千葉 長谷川さんが……。俺を……。？

江角 実験したいって。

千葉 さっきまでいた絶望の淵。は？何が英語教師？お前なんか清掃要員。新たな人生開く突破口。保健室待つ天使放課後お。

千葉、走り去る。

古谷 感情表現独特だな。

江角 あいつで大丈夫かしら。

秋生 藤君、フルチンにはなにもなさそう。

藤 マジかよ。時間の無駄したな。すみません、失礼しました。
古谷 あ(藤に) ねえ、ちょっと聞いてもいい？
藤 え？
古谷 秋生君と藤君ってどういう関係なの？
江角 古谷先生！
秋生 え……？
江角 やめてください。
古谷 ……はい。
古谷、去る。
間。

江角 気にしないで？
藤 ああ、はい。
江角 ……あ、それ次の新聞？
藤 ああそうですけど。
江角 見ていい？
藤 はあ。

藤、江角に新聞を渡す。
秋生、藤にコソコソ話す。

秋生 藤君。
藤 ん？
秋生 江角先生、曇ってる。
藤 え、いつ？
秋生 今も。
藤 え、なんで？
秋生 ……あの、僕らって先生たちから何か言われています？
江角 ……。
秋生 え？
藤 あの。
江角 え？
藤 俺らって先生たちから何か言われています？
江角 ええ？私はそういうのわかんないよ。
藤 そうですか。
江角 どうしたの？
藤 あ、いえ。

チャイムの音が聞こえる。

江角 何か困ったことがあったら言ってみてね？相談乗るから。
藤 はあ。あ、じゃあ失礼します。
江角 うん。

藤と秋生、保健室を出る。

■ 16場 廊下場

同日。昼休み終わり。
藤と秋生、歩いている。
秋生、足を止める。

藤 ?
秋生 江角先生、五味先生と同じだった。
藤 ん?
秋生 あの二人って普段全然曇らないんだよ。
藤 へー。
秋生 なのに、僕らと話す時に曇ったんだよ。二人とも。曇り方も同じような感じで……。
藤 なにそれ。俺らに何か隠してること?
秋生 そうなる。
藤 今日追ってみる?
秋生 いや違うんだよ。
藤 何が。
秋生 ……僕らに原因があるんじゃないかなって思っ
藤 え?
秋生 元々嘘がある人だったら、誰と話しても曇るよね?
藤 そうだね。坂内みたいだね。
秋生 でも、特定の相手にだけ曇るって、その相手にだけ嘘ついてることだよ? それ
藤 て、僕らに何かがあるってことじゃない?
秋生 俺ら? 何も隠してることなんてないじゃん。
藤 そうなんだけど……。
秋生 強いて言えば、実は坂内を陥れようとしてるとか?
藤 ……。
秋生 考え過ぎじゃない?
藤 そうなのかな。
秋生 ほら、行こ?
藤 うん……。

二人、去る。

■ 17場 保健室

同日。放課後。
千葉、テストをさせられている。
長谷川、カバンから528Hzの音叉を出し、録音の準備でスマホを操作する。

江角 (音叉を指して) なにそれ。
長谷川 528Hzの音叉。
江角 ああ、ソルフエジオ?
長谷川 昨日買ってきたの。
江角 そんなの売ってるんだ。

江角、音叉を響かせ音波を顔に浴びせる。

長谷川 小顔効果ないよ?
江角 ……(音叉返す)。
長谷川 古谷先生まだ?
江角 知らない。
長谷川 ルーズだなあ。
江角 そうなの。自分が興味あること優先して予定とか平気ですっぽかすからね。
長谷川 別れてよかったと思うよ。
江角 え、やっぱり? そうよね? ありがとう。

千葉、テストを終える。

千葉 あ、長谷川さん。テスト、終わりました。(二枚の答案を渡す)
長谷川 (二枚の答案を受け取り) ありがとう。お疲れ様。
千葉 全然疲れてないっす。
長谷川 じゃあこの(音叉)音聞いておいてもらっていい?
千葉 ありがとうございます。
江角 (長谷川から一枚の答案を受け取り) どれどれ?

長谷川と江角、答案を見る。
千葉、音叉を響かせている。

江角 うわあ……。
長谷川 採点する前に酷いのわかるね。
江角 歴代総理大臣に、角野卓造が入ってる。
長谷川 政治家っぽい名前ではある。
江角 むしろよく出てきたわね。
長谷川 漢字の読みも悲惨だよ? 「大豆」が「おおまめ」になってる。
江角 あーやりがち。「小豆」は? やっぱ「こまめ」って書いてる?
長谷川 いや、「おまめ」だね。
江角 どうなってんの?
長谷川 最高のモルモットだよ。
千葉 え? 今、最高って言われました?
江角 都合の良い耳だな。
長谷川 じゃあ早速実験するね。
千葉 あ、ありがとうございます! あの、よろしくお願いします!!

千葉、手を差し出す。

長谷川 あ、(握手をして) よろしく。
千葉 はあああん……。

間。

長谷川 千葉君。
千葉 はい！
長谷川 ここ座ってもらっていい？
千葉 あ……ごめんんだけど、命令してもらっていい？
長谷川 え？
千葉 いや、俺実験台じゃん？ だったら、ね？ 命令してもらっていい？
長谷川 ……ここに、座れ。
千葉 はあああああああんん……。

長谷川、千葉の気持ち悪さを受けて江角をチラ見。

長谷川 千葉君。
千葉 はい。
長谷川 この音に合わせて長く声出してもらっていい？
千葉 出すよお？

長谷川、スマホを千葉の口元に近づけ音叉を響かせて千葉の耳元に近づける。
千葉、音を聞き、勢いよく息を吸う。

千葉 きーーーーー。……
江角 なんで「き」なのよ。
長谷川 (江角に「シッ」の表情)
千葉 (息の限り続ける)
長谷川 もう一回。(音叉を響かせ、千葉の耳元へ)
千葉 すー(吸う)きーーーーー。……
江角 ……え、ちょっと待って？ 好きって言ってない？
長谷川 もう一回。(音叉を響かせ、千葉の耳元へ)
千葉 すきーーーーー。……
江角 今のは言ったね。

長谷川、音を聞く為に顔を千葉に近づける。
千葉、長谷川が近くなるのに合わせて音程が上がる。

長谷川 いや、音程守ってくれないと。
千葉 ごめんなさい！ もう一回お願いします！

長谷川、再び音叉を響かせ、千葉の耳元へ。
千葉、大きく息を吸うが、思いとどまり、口臭を気にする。

長谷川 何？
千葉 歯磨いて来る！

千葉、走り去る。
長谷川、江角を見る。

江角 モルモット選び間違えた？

長谷川 いや、全く情が湧かないから最高。
江角 怖いこと言うね。

古谷、入ってくる。

古谷 おつかれー。
長谷川 遅い。
古谷 ああごめんね。あれ？もう終わっちゃったの？
長谷川 歯磨きいってます。
古谷 歯磨き？衛生面大事なの？
江角 千葉的には大事。
古谷 ああそう。でどう？上手くいきそう？
長谷川 どうでしょうねえ……。
古谷 どのくらいで変わるって見込んでるの？
長谷川 全くわかんないですね。卒業するまでには間に合わないかも。
古谷 そんなに？一年半続けてればさすがになんかあるんじゃない？
長谷川 もしかしたらちよっと間違ってるんじゃないかと思って。
古谷 え？
長谷川 千葉君の実験とは違うやり方も探ってるんです。
古谷 なになに？
長谷川 ちよっと協力してもらってもいいですか？
古谷 もちろん。
長谷川 江角先生のこと褒めてもらっていいですか？
古谷 え？
長谷川 本気で。出来る限りたくさん。
古谷 わかった。

古谷、江角に近寄る。

長谷川、古谷にスマホを向ける。

古谷 お前ってさ、優しいよね。
江角 え？
古谷 可愛いし。気がきく。ママなところもある。
江角 ええ？なによ急に。
古谷 えっとお……メイク、してる。
江角 え？
古谷 あとは……髪型、パーマ。もうない。限界。
江角 は？
長谷川 全然ダメ。もっと本気で言ってください。
古谷 え、なんなのこれ。
長谷川 今、褒め言葉サンプルを集めてるんです。
古谷 褒め言葉サンプル？
長谷川 そう。ソルフエジオが含まれてる言葉を探してるんです。
古谷 え？どういう意味？ソルフエジオって周波数だよ？
長谷川 そんなことわかってますよ。あれ知ってます？水に「ありがとう」って言い続けると水の結晶が綺麗になるってやつ。
古谷 ああー懐かしい。
長谷川 あれってどういうことだと思います？
古谷 はあ？あんなのインチキだろ？
長谷川 うわあ、つまんないこと言いますね。古谷先生もそんなもんか。
古谷 は？つまんなくねえし。そんなもんじゃねえし。

長谷川 じゃあなんで結晶が綺麗になると思います？
古谷 ええ……？「ありがとう」って言葉には、ソルフェジオが含まれていて？それが水に共鳴したことで、水の結晶が綺麗になった、みたいな？

長谷川 そうそう！
古谷 つしやー。

人にも同じことが言えると思うんです。褒められて育った子どもはそれに共鳴した大人になる。逆に罵倒された子はそれに共鳴する。それはただの教育論なんかじゃなくて、人間の持つ周波数が言葉に共鳴してるからなんですよ。つまり人に共鳴する周波数は存在する。常に変化していく人が持つ固有振動数に共鳴する周波数は、言葉なんですよ。つまり、ソルフェジオを多く含む言葉を見つければ、人を変化させる周波数が見つかると思うんです！

古谷 ……（江角に）ちょっと彼女なに言ってるの？

江角 私はとっくにわかんない。

ソルフェジオは理想への変換じゃないですか。だったらそういう言葉に含まれているに決まっています。理想への変換って言ったなら？褒め言葉なんですよ。だからサンプルを取りたいんです！……なのに、サンプル取ろうと思っても上辺な言葉ばかり。

古谷 そりゃそうだろう。褒めてみて言われて本気で言えるわけないっつーの。

長谷川 ……じゃあどうしたらいいんですか。

古谷 うーん……嘘発見器とか使えば？

長谷川 そんな変な機械つけたらそれこそかまっちゃやうじゃないですか。

古谷 あれ？声の録音だけで判別出来るのあるよね？（スマホで調べる）

長谷川 え？

古谷 イスラエルかどつかで作られてるんだよ。なんて言ったかな。

長谷川 声だけ？脈拍とか関係なく調べられるんですか？

古谷 うん、声帯にかかるストレスを測ってるらしい。

長谷川 え、そんなの言葉だけじゃわからないですよ？

古谷 いや、言葉って真実は一定の周波数を持つてるんだけど、嘘には色んなパターンの周波数があるんだよ。

長谷川 え、なんですかそれ。

古谷 脳の混乱が影響するらしい。だから、その発見器は真実の周波数からどれくらい離れてい

るかってことを測定してるんだと。あ、出た。

長谷川、スマホを奪う。

江角も覗く。

長谷川 「Tone Truster」

江角 トーン？音色？

長谷川 これ持つてるんですか！？

古谷 持つてねえよ。軍用でめっちゃくちゃ高いんだよ。

長谷川 ええ……。

……そんなあなたに朗報です。実はこれ、日本製もありましてですね。日本製のは、「Tone」をモジって「ト音」。日本製ということで、性能も保証も充実しております。

長谷川 いくらですか！？

古谷 お値段なんと6980円！

長谷川 買った！買った！

古谷 ありがとうございます！なんとこちら！生産中止しております！

長谷川 （古谷を叩く）

古谷 （笑）

江角 そういうとこ本当よくないからね？

長谷川、怒って座っている。

古谷 え、ごめんて。他にも似たようなのあるか調べよ？ な？ ……あ、ほら！ タカラ社でも同じ

ようなのあるよ！

長谷川 おもちゃじゃん。

古谷 あ、タカラなめちやダメだよ？

千葉が入ってきて、古谷と長谷川が近距離で話してる姿に愕然とする。

江角 あ、古谷先生。

古谷 え？（千葉と目が合い）あ、違うよ？ 誤解だよ？

千葉、古谷を追い回す。

同日。夜。
五味、プリントを見ている。
坂内、入ってくる。

坂内 おお、お疲れ様です。
五味 お疲れ様です。
坂内 まだいらっしやっただんですね。
五味 ええ。

坂内 (五味のプリントを見て) あ、病院いつでしたっけ？
五味 明後日です。

坂内 ああそうか。お任せしてしまっただけすみませんね。
五味 ……坂内先生も一緒にいきませんか？

坂内 え？

五味 病院側の話次第では、提案しようと思っただけです。
坂内 何をですか？

坂内 病院にお任せすることをです。

坂内 え？ いやいや、ちょっと待ってくださいよ。

坂内 やはり私たちの手には負えません。

坂内 ちよっと待ってくださいよ。だって…本人にはなんて言うんですか？ お前頭おかしいぞとでも言うつもりですか？

坂内 そんな言い方はしませんし、私が伝えることに不安があるのであれば坂内先生から。

坂内 ええ？ 私ですかあ？ ええ？ ちよっとなんて言っただけいいかわからないなあ…。

坂内 だからと言っただけ、このまま放ったらかしにするわけにもいかないでしょう。

坂内 でも…、今までも上手くやってきたじゃないですか。

坂内 ……。

坂内 そうでしょ？ それをなんで今更突きつける必要があるんですか？ 秋生が可哀想ですよ。

坂内 ……ご両親はなんて。

坂内 学校の判断で、と。

坂内 ……。

坂内 秋生をちゃんと見てあげられるのは私たちだけなんですよ。
五味 であれば、手遅れになる前に専門的な人に任せるべきです。

坂内 話聞いてました？

坂内 私たちが正しい判断を下すべきです。

坂内 あの…私にはね？ その、五味先生がおっしゃることと逆だと思っただけですよ。

坂内 逆と言いますと。

坂内 秋生は、回復に向かってるんじゃないかと。

坂内 それは違います。

坂内 どうしてですか？ とても積極性も出て来たじゃないですか。

坂内 それは秋生じゃありません。

坂内 秋生ですよ。

坂内 違います。

坂内 なんて言い切れるんですか。わからないじゃないですか。

坂内 ……わからないんだと思います。

坂内 そうでしょ？

坂内 いえ、私じゃありません。秋生自身がわからないんだと思います。

坂内 はい？

坂内 自分が、一体なんなのか。それは、とても危険です。

坂内 危険って。

坂内 そう思いませんか？ 積極性が出て来たということは藤が――

坂内 あの。

■ 19場 進路相談室

二〇一九年五月二十三日（木）昼休み。
藤と秋生、坂内に新聞を見せている。

坂内 おいおい、なんだよお。俺ばっかりだなあ。
藤 そうなんですよ。

坂内 校長先生はなんて？

藤 坂内先生が良いなら良いって。

坂内 ああそうなの？まあ校長先生が良いって言うなら仕方ないなあ。

藤 ありがとうございます。

坂内 ああそうさ。俺な、こう見えても昔はやんちゃだったんだよ。

藤 え？

坂内 地元じゃ知らない奴はいないくらいだったんだぞ？

藤 え、なんの話ですか？

坂内 いやいや、まだまだネタあるんだよ。次回のために出しておいてやるから。

藤 あ、とりあえず今は大丈夫ですよ。

坂内 まあ聞けって。ケンカもしたなあー。囲まれる程の不良をたった一人で相手にしたり？

秋生 藤君。そろそろ行こう？

坂内 はい、何人くらいでしょう？

藤 え？

坂内 これクイズ形式にしたら、次号までネタ引つ張れるからな？正解は20人！すごいだろ？

秋生、目をこすり、フラつき始める。

坂内 しかも、先生な？ただの不良じゃなくて、正義感もあったのよお。イジメが流行ってた時期ってのもあって、学校のイジメを撲滅したんだよ。あ、それで結構モテたのかもなあ。

藤 （秋生に）大丈夫？

坂内 お前もあれだぞ？反抗期とかで荒れちゃったとしても、自分の中の正義は守らなくちゃいけない。わかるか？俺は今でも正義を持ってるぞ？俺の正義はやっぱり生徒を守ることなんだよ。

秋生、倒れる。

坂内 ……秋生？ ……秋生！

坂内、呼びかけに応じない秋生に焦り保健室に連れていく。

同日。昼休み。

江角、秋生の診察をしている。

藤、秋生の側に立っている。

長谷川と古谷、秋生の様子を伺っている。

秋生
目の前にモヤがかかったような感じで曇ってて……。坂内先生を見ようとするんですけど、ピントが合わないっていうか、邪魔なんですよ、そのモヤが。そしたら段々気持ち悪くなってきて……。

秋生、会話中脇から体温計を出し、江角に渡す。

江角、体温を確かめる。次に秋生の目を診察する。

江角、秋生の眼球を動かさせ、ペンライトで見る。

江角
んー。なんともないけどね。

秋生
今はなんともないんです。

江角
そういうのはよくあるの？

秋生
そうですね。

江角
いつから？

秋生
小さい頃からです。

江角
そうなんだ。どういう時とかってあるの？

秋生
……。

江角
ん？

秋生
話さなきゃダメですか？

江角
あうん、出来れば。

藤
秋生、話した方がいいよ。

秋生
でも……。

藤
大丈夫だよ。

秋生
……秋生君？

三人
……僕、嘘がわかるんですよ。

秋生
え？

江角
人が嘘をついているのがわかるんです。どんな些細なものでも。

秋生
それは……すごい耳だね。

江角
耳じゃないんです。目なんです。見えるんです。

秋生
見えるってなに？ 目見れば分かる的な？

江角
違います。それがさっき言ってたモヤなんです。

秋生
曇った感じ。

江角
感じじゃなくて、本当に見えるんです。それで曇る瞬間って、決まって目の前の相手が嘘

ついた時なんです。嘘が聞こえるんじゃないかって、見えるんです。

古・長
ト音だ！

長谷川
あった！

古谷
あったなあ！

長谷川
え、これでソルフエジオ見つかったちゃいますよね！？

古谷
いや、とりあえずあれだ。秋生君が嘘をどう見えてるかを調べる必要がある。

長谷川
確かに。

古・長
秋生君！

秋生
え、はい。

長谷川
日常会話の中でモヤ見える瞬間を全部メモって？

秋生
え。

古谷
モヤの形もだ。どんな形でモヤの濃さもあるならそれも。

長谷川
出る場所も変化ある？

秋生 あうん。
長谷川 じゃあそれもだね！
秋生 あはい。
古谷 よし、調べに行こう！
江角 ちょっとなんなの！？
長谷川 よろしく！
秋生 あ、はい。（立ち上がる）
藤 おい秋生！新聞は？
秋生 あ……あの、ちょっと待って！
古・長 ？
秋生 ごめんなさい、今はちょっと厳しそうです。
長谷川 お願い！秋生君が必要な。
秋生 え……。
藤 少しくらい待てないの？こっちは新聞が大事な時期なんだけど。
古谷 秋生君にしか出来ないんだよ。
秋生 ……藤君。
藤 なに？
秋生 僕、ちょっと手伝ってもいいかな。
藤 は？
秋生 新聞もちゃんとやるから。
藤 いやいやなんでだよ。こんな意味わかんないことに協力する必要ないから。
秋生 僕が必要だって。
藤 は？
秋生 やりたいたんだよ。（長谷川に）手伝います。
長谷川 ほんと！？ ありがとう！
藤 いや、こちらこそありがとう。
長谷川 え？
藤 救われたよ。
秋生 秋生君？
長谷川 他人（ひと）から必要とされたのなんて初めてだよ。
秋生 ……じゃあ、行こうか。

長谷川と古谷と秋生、去る。
藤、取り残される。

■ 21場 主に保健室

秋生と長谷川、PCに向かい、計画の確認。
江角と古谷、見守る。
千葉、影から覗いている。
秋生、千葉に気づき、招き入れる。

別空間に、坂内と五味と安達と戸井。
秋生と千葉、先生たちにインタビュする。
秋生、モヤに気分が悪くなってフラつく。
千葉、秋生を支える。
三人、笑顔でPCに向かう。
藤、三人を遠くから見つめる。

長谷川 あったあ！

四日経ち、二〇一九年五月二十七日（月）放課後。
長谷川と秋生と千葉、江角と古谷に検証結果を話している。

古・江 嘘の中に？
長谷川 ソルフエジオは、褒め言葉ではなく嘘に含まれていた！
古谷 キャラどうした？
秋生 三日寝てないみたいです。
千葉 そんな長谷川さんも素敵。
長谷川 ついでに、秋生君が見えるモヤと嘘の関係もわかってきました……。
江角 それ気になる。
長谷川 モヤが出る場所は嘘の種類を表している！
古谷 嘘の種類？
秋生 嘘を5つに分類しました。
千葉 見栄、保身、冗談、謙遜、情。見栄のモヤは胸。
秋生 坂内にインタビュに行くときよく見える。
千葉 保身は下半身が大きく曇る。
秋生 遅刻してきた坂内にまとわりつく。
千葉 冗談は、顔。
秋生 授業中に雑談をする坂内の顔は良く見えない。
千葉 謙遜は、頭部。
秋生 校長としゃべっている坂内に乗っかってる。
千葉 最後に情。これは、両腕が曇る。
秋生 進路相談の時の坂内はムッキムキ。
古谷 すごい坂内！
長谷川 （笑）もはや坂内先生が見えてない。
秋生 この中でソルフエジオが多く含まれていたのは、最後の情。
江角 両腕が曇った時。
千葉 情っていうのはどういう嘘なの？
古谷 優しさから来る嘘。生徒を励まし、プラスに変えてく要素。
長谷川 悪い嘘じゃないわけだ。
千葉 どれも悪い嘘じゃない。でもなんでも度が過ぎるとヤバイ。
長谷川 それで！そんな曇りに曇った坂内に共鳴させるソルフエジオがこちら。

江角と古谷、若干身構える。
長谷川、携帯から单音を響かす。

古谷 あれ？意外としょぼいね。
千葉 そう！聞こえてるのはソルフュージオのみ。でも含まれてるよ？聞こえない中に人には認識出来ない倍音。坂内の体に get on.
共鳴させたらこっちのもの。新しい自分に To be reborn.
古谷 ライムが効いてるねえ。
長谷川 それでは、坂内先生に最終実験に行つて来ます。

長谷川と秋生と千葉、出て行く。

古谷 ダセエ。あいつらなんなんだよ。
江角 ……ねえ、あれ本当に大丈夫なの？
古谷 大丈夫大丈夫。正直あんなの物理的に無理だよ。
江角 え、そうなの？
古谷 頑張つて頭痛くらいじゃない？
江角 の割にはあんたも盛り上がつてたじゃん。
古谷 まあ、それは秋生君の為にさ。
江角 ……え？
古谷 秋生君には、藤君以外の友達が必要なんだよ。
江角 ……マジで？
古谷 惚れ直した？
江角 いや、違うでしょ。面白がつてただけでしょ？
古谷 あ、バレた？
江角 あぶね。
古谷 結果論でも秋生君が楽しそうでよかったよ。
江角 ……まあね。
古谷 ちよつと覗き見して来るわ。

古谷、去る。

■ 22場 進路相談室

同日。放課後。

坂内、千葉の進路相談を受けている。

長谷川、ポーターブルスピーカーを持っている。

秋生、坂内を見つめる。

坂内 え、千葉の進路相談じゃないの？

千葉 そうですよ？

坂内 二人は？

千葉 付き添いです。

坂内 ああそうなの？ 仲良いな。

千葉 それであの、俺、志望校を変えようと思ってるんすよ。

坂内 ああそうなのか？ それが良いかもしれないな。どこにするんだ？

千葉 東大です。

坂内 東大ですか。

千葉 無理ですか？

坂内 いやあ……東大かあ……ちよつと千葉には厳しいかも知れないなあ。

千葉 みんなそう言うんです。やっぱり坂内先生も応援してくれないんですか？

坂内 あ、いや、俺は応援してるぞ？ でもな、それはそれは努力が必要だぞお？ お前は本気になるのか！？

千葉 なれます！

坂内 そうかあ！ なるのかあ！ じゃったらあ、もう先生はもちろん応援するぞお？

秋生、長谷川に合図を出す。

長谷川、スマホを操作。

千葉 でも、まだ自信なくて……。

坂内 そりゃそうだよ。でもな？ 千葉は——

スピーカーからソルフエジオ周波数が流れる。

坂内 え、なにこれ。

千葉 あ、気にしないでください。

坂内 え、気になるんだけど。

千葉 気にしないでください。

坂内 ああうん。でな、えつと、そうだよ。周りから無理と言われることがなんだ！ 千葉は本気になった自分を知ってるか？

千葉 知りません！

坂内 そうだろ？ 大人になったって自分の本気を知らない奴ばかりだ。お前は出来る。先生が応援してるぞ！

千葉、坂内の爆発に備えて警戒している。

坂内 ん、どうした？

秋生 なにも起こらないね。

長谷川 なぜだ……

坂内 これは何してるんだ？

千葉 あいえ！ 先生、もっとください！ もっと俺を盛り上げてください！

坂内 あ、う、え、おお！ えつとお、いいか？ 社会に出ると信じるものっていうのは自分なんだよ。自分の力を信じる事が出来る人っていうのが成功するんだ。でも、学校ってのは——

非常ベルが鳴る。犬の鳴き声も聞こえる。

千葉 あれ、また？

坂内 最近多いなあ、ちよつと待ってる。

千葉 え、先生！ いかないでください！

坂内 え？

千葉 ああ！ もうダメだあ！ 俺はダメな奴なんだあ！

坂内 千葉あ！ そんなこと言うな！ 学校には先生がいるんだ！ 自分の力を信じられなくても、先生がお前らの力を信じてる！ な！？ 安心するだろ？

秋生 もう真っ白……

坂内 俺は生徒のためだったらなんだって——

坂内は突然耳を手で覆う。

非常ベル、犬の鳴き声が止み、ソルフエジオも止まる。

千葉 どうかしたんですか？

坂内、耳を押さえた手の隙間から血が流れる。

千葉 うわあああああ！

先生たち、入って来る。

千葉、逃げ去る。

江角、坂内を介抱しながら連れ去る。

長谷川、五味に促されて去る。

秋生、立ち尽くす。

■ 23場 屋上

同日。夜。
秋生、座っている。
藤、入ってくる。

藤 ……大丈夫？
秋生 ……。
藤 さつき、坂内先生病院から戻ったみたいよ？
秋生 ……。
藤 俺、なんか嫌な予感してたんだよね。
秋生 ……ごめん。
藤 ……別にいいけどさ。
秋生 ごめん。……僕が調子乗って、藤君は止めてくれたのに、新聞だって大事だったのに……
藤 本当にごめん。
……いいって。

五味、入ってくる。

五味 ……待たせたな。
藤 あ、いえ。あの、坂内先生は……？
五味 たいしたことはない。が、大事を取って今日は帰ってもらった。
藤 ああそうですか。よかったね。
秋生 え……
藤 なに？
秋生 曇ってる。
藤 え？
秋生 腕、曇ってる。
藤 坂内先生、不味いんですか？
五味 いや、本当に大丈夫なんだ。
藤 じゃあ、何が見えてんの？
秋生 わかんない……。

間。

五味 座っていいか？
藤 あ、はい。

五味、座ってタバコに火をつける。

藤 え。学校ですよ？
五味 ……そうだな。
藤 ……五味先生もそういうところあるんですね。

藤、少し笑う。

藤 やっと五味先生のネタ見つけたね。
秋生 ……。

長い間。
五味、タバコを消し、改まって藤に顔を向ける。

五味 秋生。はい。
五味 藤。……藤。
五味 藤。……今回のことが問題になっている。
藤 ああ……そうでしょうね。
五味 藤。……それで……
藤 長谷川さん、謹慎とかですか？ 千葉と秋生も？
五味 藤。……藤が問題なんだ。
藤 ……え、俺？
秋生 なんですか？
五味 ……。
藤 いや、あの俺はその場にいなかったんですけど。
秋生 そうですよ。みんなに聞いて下さい。藤君は関係ないんです。
藤 とりあえず、あの二人呼ぼうよ。
秋生 確かに。ちゃんとみんなに話聞いてもらって——
五味 それなんだよ。
秋生 ……はい？
五味 お前の……それが問題なんだ。
藤 ……ちよつと意味が。
五味 お前は……誰と話してるんだ？
藤 秋生君。
五味 お前は、秋生、だろ？ ……お前の名前は、藤秋生だろ。
藤 ……は？
間。
※「」内は回想内の台詞
回想が混ざる。
古谷 「秋生君のこと聞きたくて」
五味 お前は、小さい頃から、自分にしか見えない誰かと話すことがあったそうだ。
藤 なに言ってるんですか？
五味 そして、それは中学生頃に明確に現れた。
戸井 「生きることの不安から逃げたんです」
五味 家でも学校でも、孤立してしまっただろう？
秋生 「僕が悪いの？」
五味 お前は自分の苦しさを理解してくれる友達を作り出したんだ。
藤 「秋生君は良い子だよ」
五味 友達は、最初はただ話を聞いてくれたり、励ましてくれるだけの存在だった。しかし——
藤 「誰の目にも止まらないとか、飽きてきちゃったよ」
五味 徐々に、意志を持つようになったんだ。
二人 (お互いを見て) 僕(俺)にしか見えない友達……？
間。
藤 え、おかしいですよ。
千葉 「秋生は優しいな。俺は藤よりも秋生が好きだよ」
藤 俺らを別人にしてたじゃないですか。
長谷川 「知らない人いないよ？」

五味 見て見ぬ振りをしていた。
秋生 「あの。僕らって先生たちから何か言われてます？」
江角 「ええ？ 私はそういうのわかんないよ」
五味 誰も、お前と向き合うことが出来なかった。
安達 「何もしないことをしてるんだから」
秋生 そんな……。
藤 あの手……その友達って、どっちですか？

間。

藤 自分の苦しさって……それを励ますって……俺？
秋生 藤君……。
古谷 「秋生君と藤君って、どういう関係なの？」
五味 多重人格とは違うらしい。人は、誰からも受け入れてもらえない寂しさや恐怖から、自分を裏切らない存在を作ることがあるそうだよ。
藤 おかしいですよ。
坂内 「え？ あ……藤、具合大丈夫か？」
江角 俺、話してるじゃないですか！
五味 「それって人格変わっちゃう感じ？」
長谷川 友達を作ったその先に、人格交代が起こる。理想的な人物になりきって、人に接するんだ。
藤 「理想への変換じゃないですか」
秋生 待ってって。じゃあ俺なんなの？ この身体は？ この感情は？ 俺ってなんなんだよ！
藤君……。

間。

五味 嘘が見えるそうだな。
坂内 「先生、お前には期待してるぞ？」
五味 人格交代は、そのストレスから逃げる為だと思う。
戸井 「最近チェンジ増えてるみたいですよ？」
五味 そして、藤は……記憶を長く持ち始めた藤は、自分が実体として生きてると錯覚し始めたんだ。
藤 「いつつも俺任せにするの、ほんと良くないよ？」
五味 このまま放っておくと、作り出された友達は……本当に実体として生き始める。
藤 ……は？
五味 秋生は、藤になってしまいかも知れないんだ。
藤 ぶぎけんよ。俺はずっと俺だろ？ 俺は、秋生の代わりなんかじゃなくて——
坂内 「まあ聞けって。いいか？ 秋生」
藤 秋生って呼ぶんじゃないよ！

回想が消える。
間。

五味 もっと早く、誰かが話をしなければいけなかったんだと思う。
藤 おかしいですって……
五味 本当にすまん。
秋生 ……だからですか？ だから五味先生は、僕らにだけ曇ったんですか？

間。

秋生 ……先生に藤君は見えてないってことですか？
五味 そうだ。
秋生 こんなにカツコイイのに見えないんですか？
五味 見えない。
秋生 こんなに優しいの？
五味 いない。
秋生 いつも一緒にいるのに！？
五味 いない！
秋生 いるもん！だっているんだもん！おかしいんじゃないの！？頭おかしいんじゃないの！？
五味 藤は、お前の都合の良い存在でしかないんだよ！
秋生 ……どっか行ってよ。
五味 秋生。
秋生 どっか行けって言ってんだよ！
五味 ……。

五味は動かない。

秋生 ……秋生と二人で話したいんです。
五味 ……また後で来る。

五味、静かに去る。

間。

秋生 藤君……。

藤、自分の身体を触ってみる。

藤 ……いるんだけどね。
秋生 ……。
藤 どうだった？
秋生 ？
藤 五味先生、曇った？
秋生 ……。
藤 ……そっか。

間。

秋生 なんて僕なんだよ……。どうせなら、藤君が良かったよ。
藤 俺も、その方がいいと思うよ。

間。

藤 笑えるよ……。必死になって新聞作ってき、みんなに読んで欲しいとかさ、全部秋生がやりたいたいことに付き合われてただけなのかよ。
秋生 そんなこと言わないでよ。
藤 だってそうだろう？一人が怖いってだけで俺がいるんだろ？
秋生 そんなことないよ。僕は、藤君と一緒にいるのが楽しいんだよ。藤君といたって思ったんだよ。僕は、藤君に憧れてるんだよ。
秋生 ……。だってたら代わってよ。
藤 ……え？

藤 五味先生も言ってたじゃん。俺が藤秋生になれるんだよ。だったらその方が良くない？
秋生 ……そうだよね。
藤 よかったじゃん。
秋生 え？
藤 秋生、生きてるの辛かったんだもんね。もう苦しまなくて済むんだよ。
秋生 ……辛くはないよ。
藤 嘘つけよ。苦しんでたじゃん。
秋生 そんなことないよ。
藤 あるだろ？ だから俺がいるんだろ？
秋生 ……ねえ、このまま二人でいようよ。
藤 ……は？
秋生 僕たちは二人いるんだから、それでよくない？ どっちかにする必要なんてなくない？
藤 それじゃあ俺が偽物なんだろ！？
秋生 え……
藤 二人でいる？ ふざけんなよ。じゃあなんで実験の時は俺呼ばねえの？ 楽しい時は俺なし
秋生 で、辛い時は俺呼んで？ なんなんだよ。
藤 ……ごめん。
秋生 結局、秋生は俺がいなかったらダメなんだよ？ 俺は秋生なしでも生きていけるよ。だった
藤 ら、代わろうよ。

間。

秋生 ……やだ。
藤 ……は？
秋生 代わりたくない。
藤 何言ってるの？ 俺なしで生きていけないの？
秋生 それは……
藤 いけないでしょ？ 辛い時どうすんの？ ずっと一人だよ。
秋生 ……みんなに聞いてもらう。
藤 みんな？ 話聞いてくれる人なんていないだろ。
秋生 先生。
藤 みんな見ない振りしてたんだろ？
秋生 五味先生は違う。
藤 仕事で面倒見てるだけだよ。
秋生 じゃあ友達に聞いてもらう。
藤 友達なんていないだろ？
秋生 長谷川さん。
藤 嘘発見器として利用されてるだけじゃん。
秋生 じゃあ千葉君。
藤 千葉は俺の友達だよ。
秋生 僕だって友達だよ。
藤 俺のだよ！
秋生 なんですよ！ 僕だって友達でもいいじゃん！ なんて藤君だけの友達なんだよ！
藤 お前は俺の陰に隠れてただけだろ！？ いつもそうだよ！ 自分じゃなにも出来ないくせに！
秋生 俺の顔色ばっかり伺ってたくせに！
藤 そうだよ！ ずっと怖かったんだよ！ 藤君に嫌われたら生きていけないと思って、ずっと怖
秋生 かったんだよ！
藤 自分で作ったんだろ！？ 勝手なこと言ってるじゃねえよ！
秋生 わかってるよ！ ……それでも僕は消えたくない。長谷川さんは藤君じゃなくて、僕を必要
秋生 としてくれてた。千葉君は藤君よりも僕が好きって言ってくれてた。それを藤君に渡した
秋生 くない！

藤 ……

間。

藤 なんでもっと早く、そうなれなかったの？

秋生 え……。

藤 そうやって自分の気持ちとか、ちゃんと言えるようになれなかったの？ そうしたらさ、俺
こんなことにならなかったかも知れないのに。

秋生 ……ごめん。

藤 そんなんで大丈夫なのかよ。

秋生 ……。

藤 大丈夫なの？

秋生 大丈夫。

藤 ……そう。わかった。藤秋生は、秋生にあげる。

秋生 え……。

藤 やっぱ俺、作りもんみたい。秋生が消えたくないって思ったら、それでいいやって思えて
きた。秋生の思い通りになってるみたい。

秋生 藤君。

藤 あ、やっぱり一緒にかと思ってるでしょ。また変な気持ち湧き上がってきたよ？

秋生 え、ごめん。

藤 ほら、しつかり。藤いらねえ。藤消えろって。

秋生、泣き崩れる。

藤 弱いなあ……秋生は。

秋生 ごめん……。

藤 すぐ謝るのもやめた方がいいよ。

秋生 ごめん。

藤 心配だわあ。

秋生 ……今まで、本当にごめん。今まで、ありがとう。

藤 ……うん。

秋生 藤君。

藤 うん。

二人 ……さようなら。

暗転。

二〇一九年六月三日(月)朝。
坂内と五味と安達と戸井、職員室で仕事をしている。
古谷、入ってくる。

古谷 おはようございます。

それぞれ挨拶。

古谷 五味先生。今日からですよね？

五味 え？

古谷 藤君。あ、秋生君？

五味 そうですね。

古谷 もう来てますか？

五味 屋上にいましたよ。

古谷 会いに行ってもいいですか？

五味 もちろんです。私もあとで様子を見にいきます。

古谷 皆さんは？

一同 ……。

古谷 坂内先生。

坂内 ああ……ちょっと授業の準備があるので、あとで。

古谷 ……そうですか。戸井先生、行きませんか？

戸井 え、なんで私が？

古谷 彼、共感覚者ですよ。

戸井 え？

古谷 人の声が形として見えるんですよ。気になるでしょ？

戸井 ……アニメで十分です。

古谷 ……あの、皆さんは何をそんなに避けてるんですか？

坂内 え？

古谷 一人の生徒じゃないですか。一人の人間じゃないですか。ちょっと変わった部分があるだけじゃないですか。

安達 ちょっと……随分変わってるでしょ。

古谷 危害加えてくるわけじゃあるまいし。

安達 坂内先生が怪我したじゃない。

古谷 だから、それは彼がやったことじゃないですって。説明しましたよね？

安達 わかってるわよ。古谷先生がそのかしたこともね。

古谷 それはすみませんでした。

安達 ちゃんと反省してんの？

坂内 安達先生、もういいですから。

古谷 ……。

坂内 坂内先生、行くべきですよ。

古谷 わかっていますよ。

坂内 ほら、皆さんも。どんな生徒にだって関心持たなきゃ先生なんて仕事務まりませんよ？

古谷 ……そんなのズルいですよ。

戸井 え？

古谷 生徒ばっかり心配されるなんてズルいですよ。私だって心配されたいです。

戸井 え、何を言ってるんですか？

古谷 私は関わりたくないんです！先生だからとか、生徒だからとか、そういうのズルいじゃないですか！

安達 どうしちゃった？

戸井 だって怖いものは怖いじゃないですか！安達先生だってそうですよね！？担任してる生徒

忘れちゃうくらい無関心ですよね！？
え。

坂内

あ、ちよ、あ、それ今いららないでしょ！？

安達

なのに、先生だから優しくしなきゃとか、関心持たなきゃとか、なんでですか！？ ヤダ！
ヤダヤダ！

戸井

戸井先生、落ち着いて。わかったから。ね？ 大丈夫だから。
一番子どもじゃないですか。

安達

古谷先生。人それぞれなのは、教師も同じです。

古谷

それでいいんですかねえ……。

五味

そんなことはわかりません。しかし、自分を偽って接される方が辛いでしょう。特に秋生は。

五味

それはそうですね。

古谷

古谷先生は、行ってあげてください。

五味

じゃあ行ってきます。

古谷

古谷、去る。

同日。朝。
秋生、ぼんやりと校庭を眺めている。
古谷、入ってくる。

古谷 秋生くん。

秋生 あ……、おはようございます。

古谷 おはよ。具合はどう？

秋生 ……どう見えますか？

古谷 そうだなあ……、だいぶ落ち着いているように見えるよ。

秋生 どっちに見えますか？

古谷 うーん……ちよっと難しい。

秋生 そうなんですよ。

古谷 ん？

秋生 自分でもよくわからないんです。

古谷 え？

秋生 一週間ずっと考えてるんですけど、全然整理出来なくて。

古谷 そっかそっか。

秋生 あんなの、自分で気付かないはずじゃないですか。なのに、いつからどうなって、と

古谷 か？全然わかんなくて。

秋生 人の脳って、かなり都合良いんだよ。

古谷 え？

秋生 誰もが自分が正しいって思って生きてるんだよ。

古谷 ……僕もですか？

秋生 そうだよ。

古谷 僕は自分が正しいなんて思えたことなかったです。いつも自分が間違ってる気がしてま

秋生 たから。

古谷 だから正しいって言ってくれる友達がいたんでしょ？

秋生 ……なるほど。

古谷 良い友達だよ。

秋生 ……良い友達。

古谷 ……ちよっと調べたんだけどさ、秋生君の藤君ってイマジナリーフレンドって言うみたい

秋生 ね。小さい頃は誰でもいるような自分にしか見えない友達なんだって。

古谷 らしいですね。

秋生 あ、知ってた？

古谷 そりゃ色々調べましたよ。

秋生 そうだよね。

古谷 そんな可愛いもんじゃなくて、もっと気持ち悪い病名とかもいっぱい出てきました。

秋生 ああ(笑)

古谷 怖過ぎて、また藤君に頼るところでしたよ。

秋生 ……もう藤君は見えない？

古谷 気配は感じますけどね、見ないようにしています。藤君とも約束したので。

秋生 ああそれがいいよ。

古谷 長谷川さん！

秋生 ……あの。

古谷 ん？

秋生 みんな、藤君と話してた時に見た目は僕だったんですよ？

古谷 そうだよ。

秋生 秋生として接してくれてた時はどうやって見分けてたんですか？

古谷 雰囲気じゃない？喋り方とか変わるし。

秋生 パッと見ではわからないってことですよ？

古谷 それはわからないね。
秋生 ……千葉君わかってたんですよ。
古谷 え？
秋生 千葉君は、藤君と僕を完全に別人として接してくれてたんですよ。しかも曇ったことなんてなくて。
古谷 すごいね。晴れっぱなし？
秋生 はい、天晴れな男です。

二人、笑う。

千葉と長谷川と江角、入ってくる。

千葉 秋生！おはよう！
秋生 あ、おはよう。
江角 ちょっと、なにしてんの？
古谷 お話してただけだよ。
長谷川 秋生君、大丈夫？
秋生 あうん、大丈夫。
長谷川 あの、ごめんね？
秋生 え？
長谷川 私の実験手伝ってもらったばかりに、謹慎とか……
秋生 いや、それは全然。……研究進んだ？
長谷川 いや全然。
秋生 え？
長谷川 あの時って色々な音が混ざってたから、あんまり参考にならなくて……
千葉 バンバンやられ損だよ。
長谷川 秋生君にも犠牲になってもらったのにごめん。
秋生 犠牲。
長谷川 でもね？人に共鳴することは本当に出来たわけだから、これから時間かけてやろうと思っ
て。
古谷 お？卒業までに間に合いそう？
長谷川 いや、大学でもやろうと思ってるんです。
江角 あ、進路決まったの？
長谷川 うん、音響工学やってみたいなって。
古谷 へー。
千葉 じゃあ俺もそうしようかなあ。
江角 は？あんたなに研究すんの？
千葉 長谷川さん。
江角 それストーカーって言うんだよ？
長谷川 秋生君はどうするの？
秋生 進路よりも自分のことで精一杯だよ。
江角 そりゃそうだよね。
秋生 でも、とりあえず新聞完成させなきゃいけないんです。
千葉 大丈夫？部員一人になっちゃったよ？あ、元から一人か！（笑）
秋生 笑い辛いよ。
千葉 あ、ごめん。
秋生 それ曇らないで言えるってすごいね。
長谷川 ねえねえ。新聞ってまだスペース余ってるの？
秋生 え？
長谷川 共鳴の記事書いてもいい？
秋生 え、もちろんいいよ。
長谷川 嬉しい。ありがとう。

秋生　じゃあさ、あの……

藤、姿を見せる。

長谷川

なに？

秋生　いや……その……

藤、近づいて来る。

秋生　待って！

藤、足を止める。

秋生　長谷川さんも、新聞部、入らない？

藤、笑顔になる。

長谷川

いいよ？

秋生　え、本当に？

長谷川　だって部活入ってないし。研究内容書いていいんでしょ？

秋生　うん。

長谷川　じゃあ全然いいよ。

秋生　ありがとう！

千葉　じゃあ俺もそうしようかなあ。

秋生　え？サッカー部は？

千葉　は？サボり過ぎてクビなんですけど？

秋生　じゃあ入ってよ！

千葉　秋生がそこまで頼むならしゃーねえーな！

秋生、笑顔。

藤、楽しげな秋生を見て、静かに去る。

江角

スポ薦諦めるなら勉強しなさい？

千葉　それもきつちいなあ。

長谷川　あ、この間のテスト持ってきた？

千葉　あ、はい。

長谷川　（答案を見て）……え？　先生……！

古谷　え、どうした？

古谷と江角、長谷川からテストを受け取る。

長谷川

あずきになってる！

二人　ちっさ！

長谷川　小さくても成果ですよ！千葉君、私が頭良く改造してあげる。

千葉　ええ！長谷川さんが俺を改造お。まだまだ伸びる俺の才能お。最強お！

古谷　……物足りなさを感じてる俺がいる。

千葉　（秋生に）どう？俺のライム。

秋生、辺りを見回している。

千葉

どうした？藤。

秋生 藤……………そうだよね。
千葉 あ、これで部活になったじゃん！
秋生 本当だ！
千葉 俺部長でいい？
秋生 え、ダメだよ。僕の新聞部なんだから。
千葉 ちえー。

坂内と五味、入って来る。

秋生 あ……………
五味 おはよう。
秋生 おはようございます。
五味 元気そうでよかった。
秋生 あの時は、ありがとうございました。
五味 いや。
坂内 お、おはよう。秋生。
秋生 おはようございます。……………怪我大丈夫ですか？
坂内 え？いや、俺は全然大丈夫だよ！
秋生 ならよかったです。すみませんでした。
坂内 いや、秋生は、身体大丈夫か？
秋生 ……ん？
坂内 え。
秋生 あの、もう一回言ってもらっていいですか？ 腕広げて。
坂内 (ゆっくりと腕を出し) 秋生は、身体大丈夫か？
秋生 ……坂内先生。
坂内 (不安そうに) ん？
秋生 (笑顔で) ムッキムキですよ。

暗転。
幕。

【2019年上演台本】

■上演記録

大阪公演 2018年9月5日～9日
大分公演 2019年3月5日～6日
東京公演 2019年3月27日～4月7日

HEP HALL,
ホルトホール大分小ホール
赤坂 RED/THEATER

秋生 板橋廉平
藤 小黒雄太
長谷川 及川詩乃
千葉 真辺幸星
坂内 村尾俊明
五味 高野アツシオ
古谷 関幸治
江角 榊木並
安達 石田雅利絵
戸井 松永渚

作・演出

春陽漁介

音楽

Brightwin

舞台監督 (大阪)

佐藤豪

舞台監督 (大分・東京)

吉田誠

舞台美術

照井旅詩

照明

安永瞬

照明オペ (東京)

鈴木麻友

音響

游也

ステージ撮影

滝沢たきお

制作

萬田拓末・森島縁・佐瀬恭代

票券・PR・宣伝美術

(株)L.Loves.R.

企画

劇団 5454

◎上演を希望される場合は、劇団5454制作部までご連絡ください。

Mail info@5454.tokyo

Tel 070-8411-5454